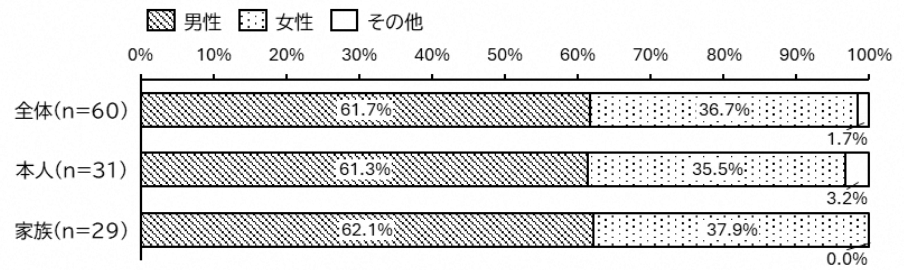


III 本人・家族への調査 結果詳細

1 基本情報

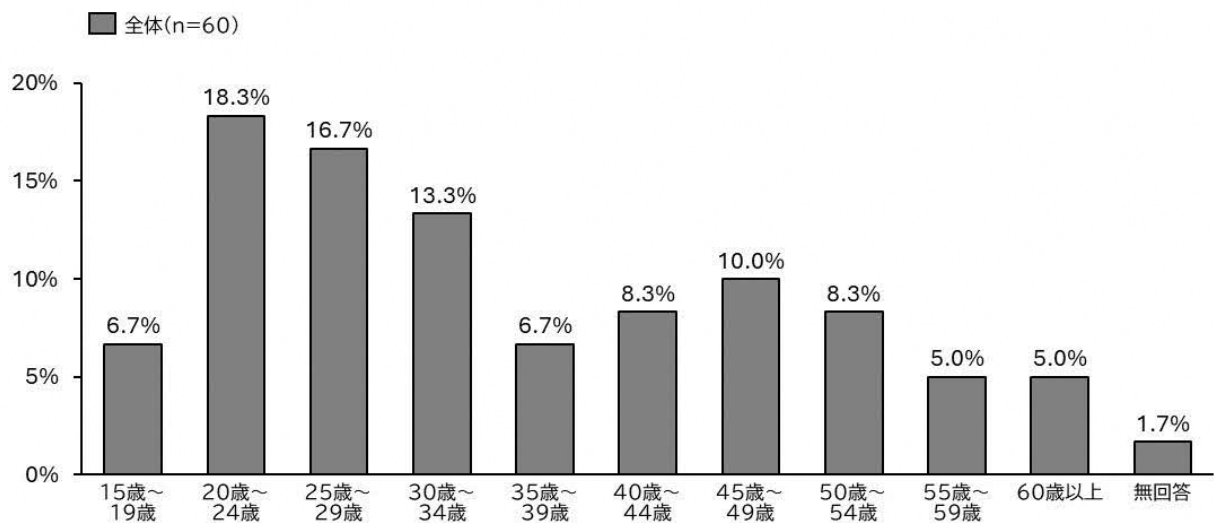
Q1 性別



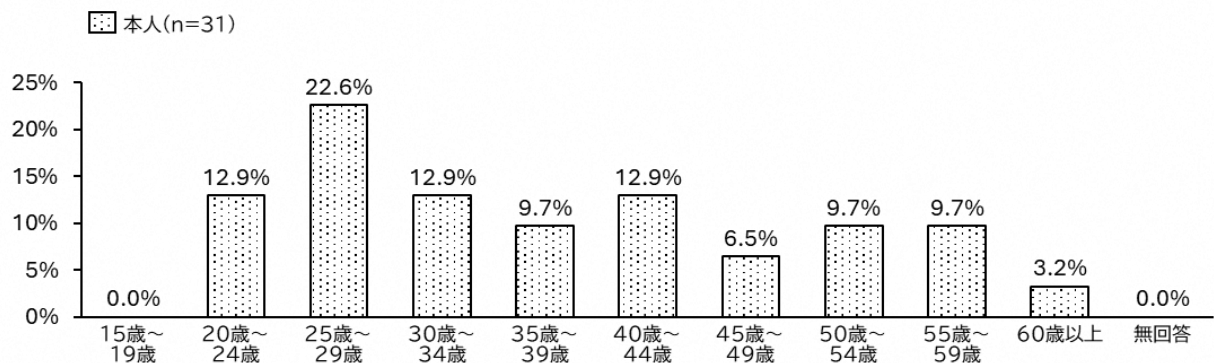
「男性」が 61.7%、「女性」 36.7%となっている。
推計調査のひきこもり群と比較して、ほとんど差はない。

Q2 年齢

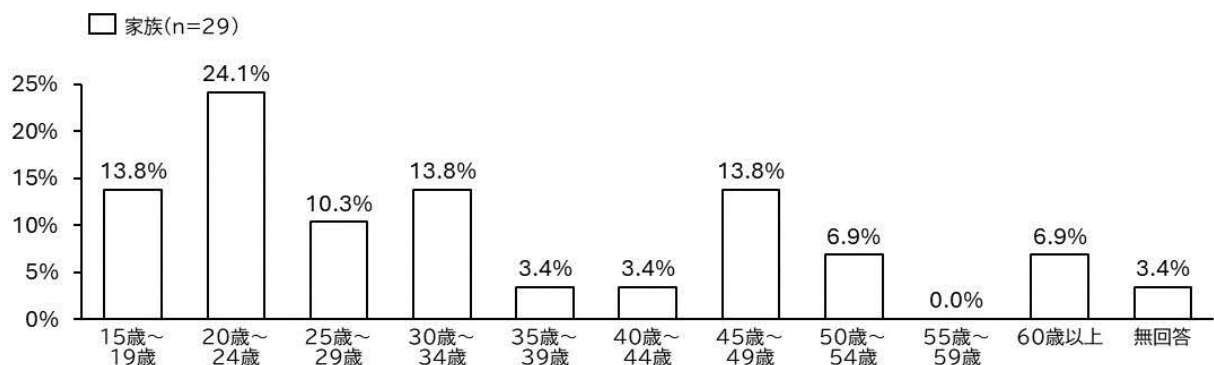
全体(n=60)



本人(n=31)

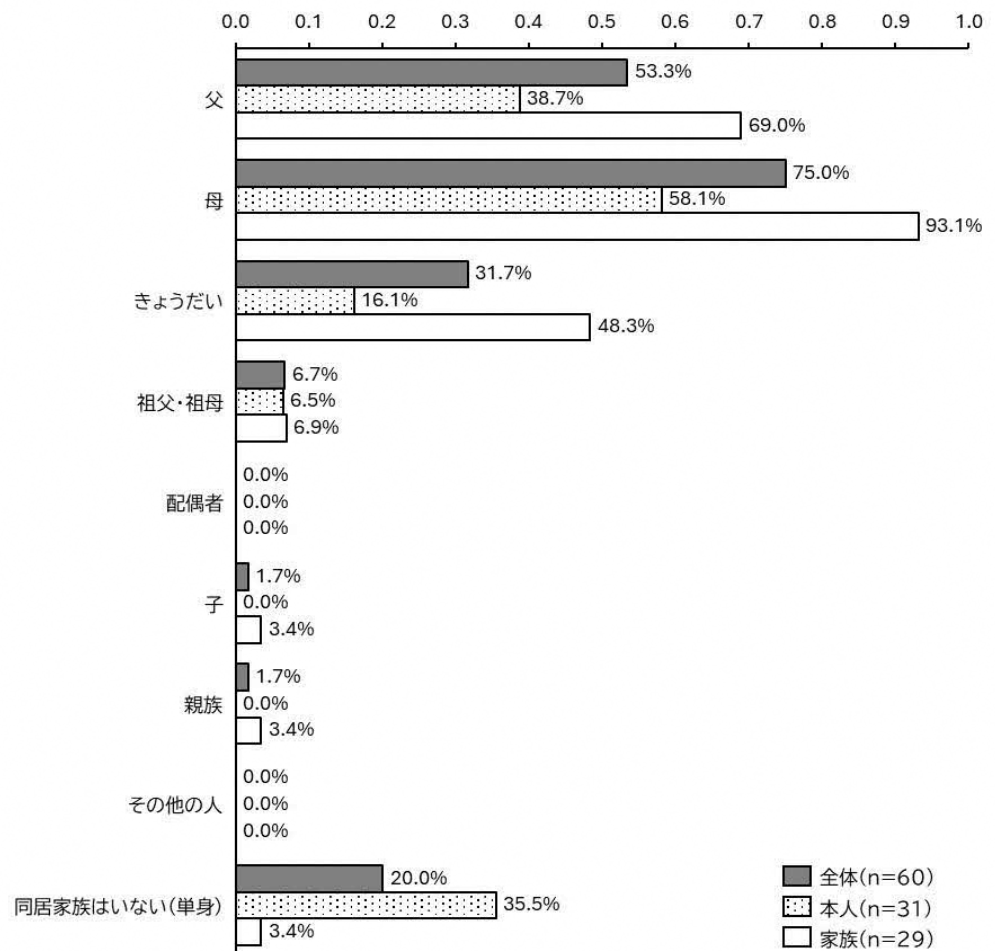


家族(n=29)



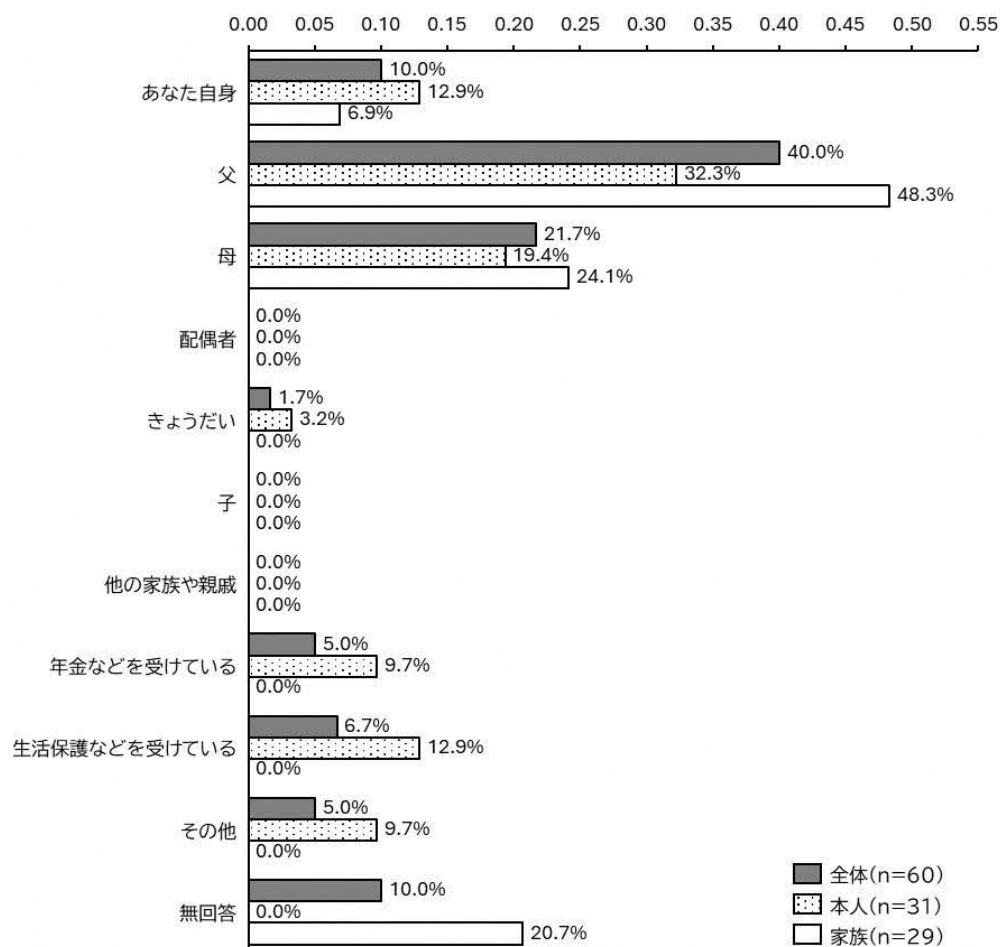
15歳～29歳が41.7%、30代が20.0%、40代が18.3%、50歳～64歳が18.3%となっている。推計調査のひきこもり群と比較して、若年層が多い傾向がある。

Q3 現在同居している方(複数回答)



「母」が 75.0%で最も多く、次いで「父」 53.3%となっている。

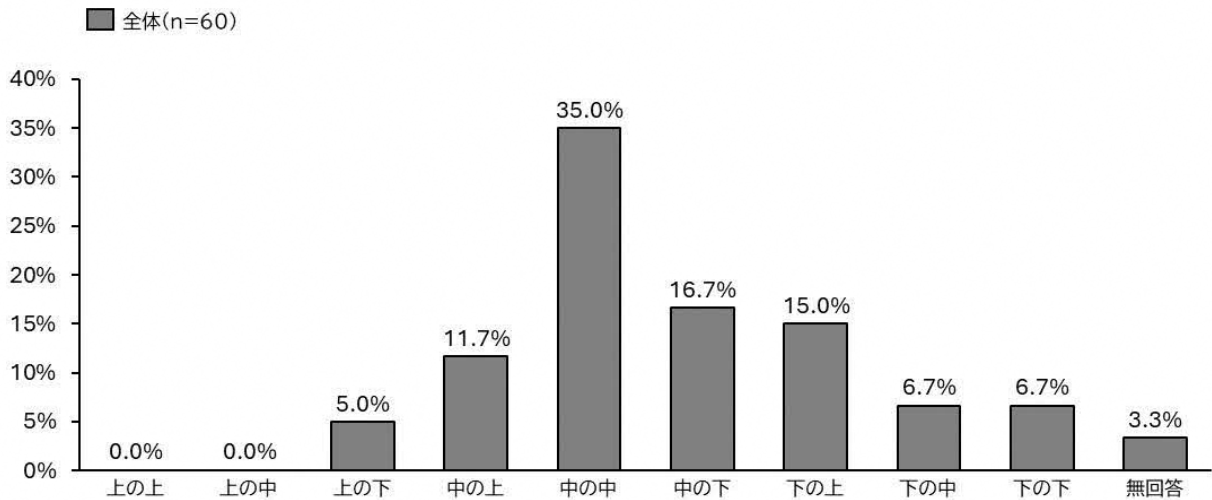
Q4 家の生活費(仕送りを含む)を最も多く用立てている人



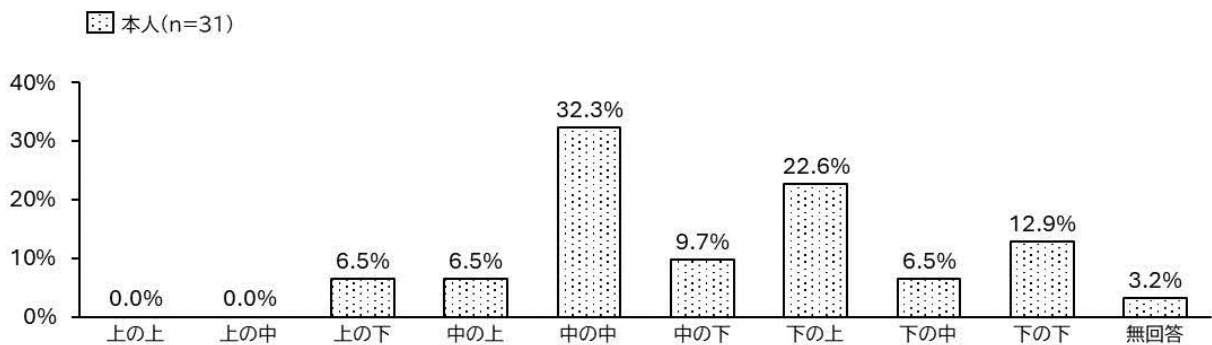
「父」が 40.0%で最も多く、次いで「母」 21.7%となっている。

Q5 人々と比べた家の暮らし向き(生活水準)の実感

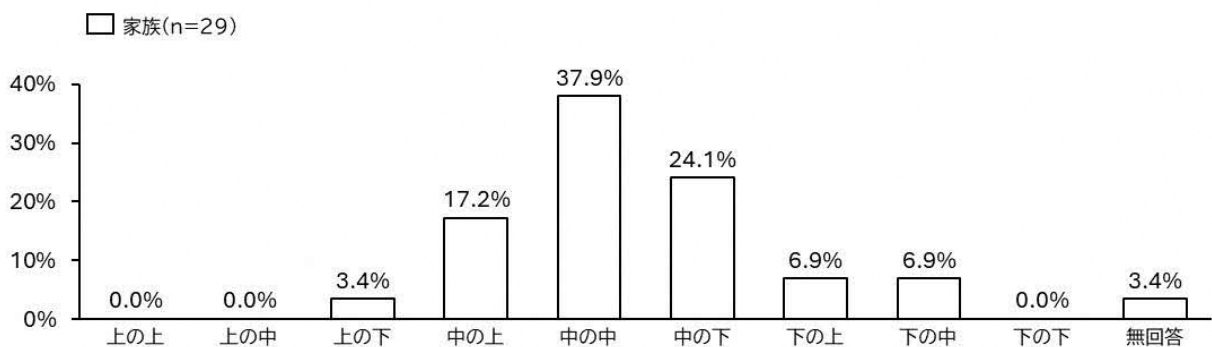
全体(n=60)



本人(n=31)

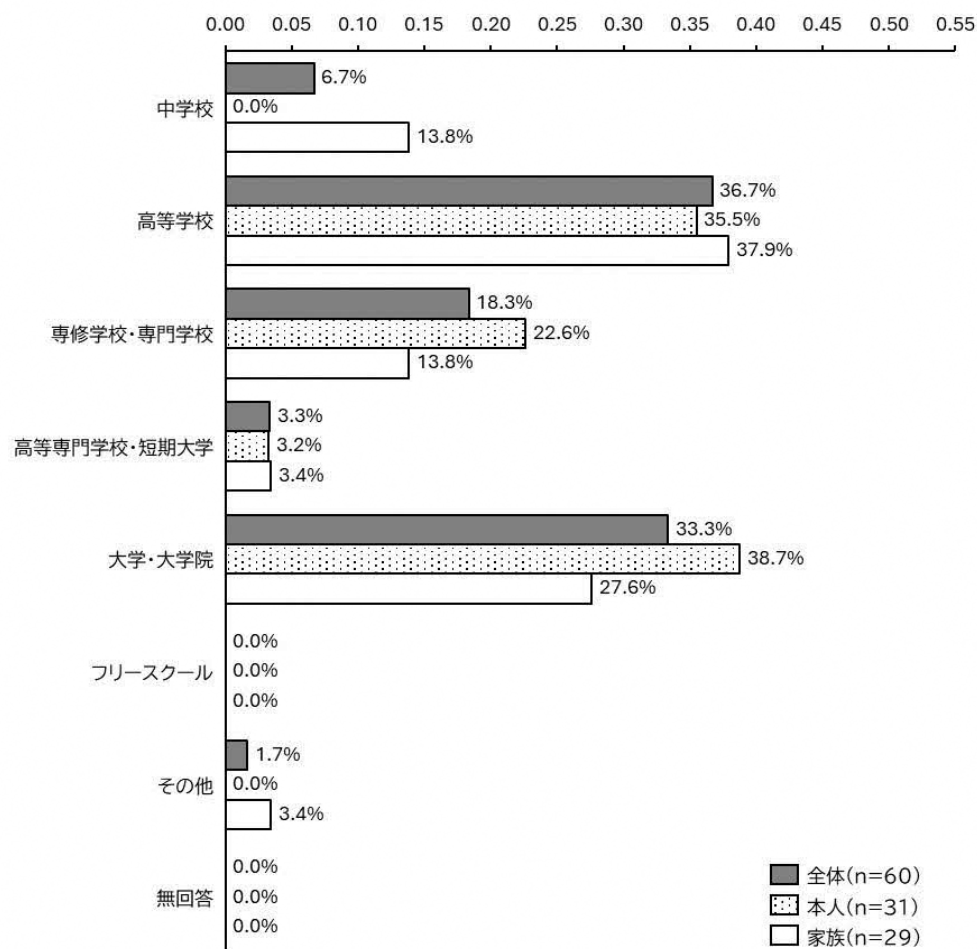


家族(n=29)



『上』（「上の上」＋「上の中」＋「上の下」）5.0%、『中』（「中の上」＋「中の中」＋「中の下」）63.3%、『下』（「下の上」＋「下の中」＋「下の下」）28.3%となっている。

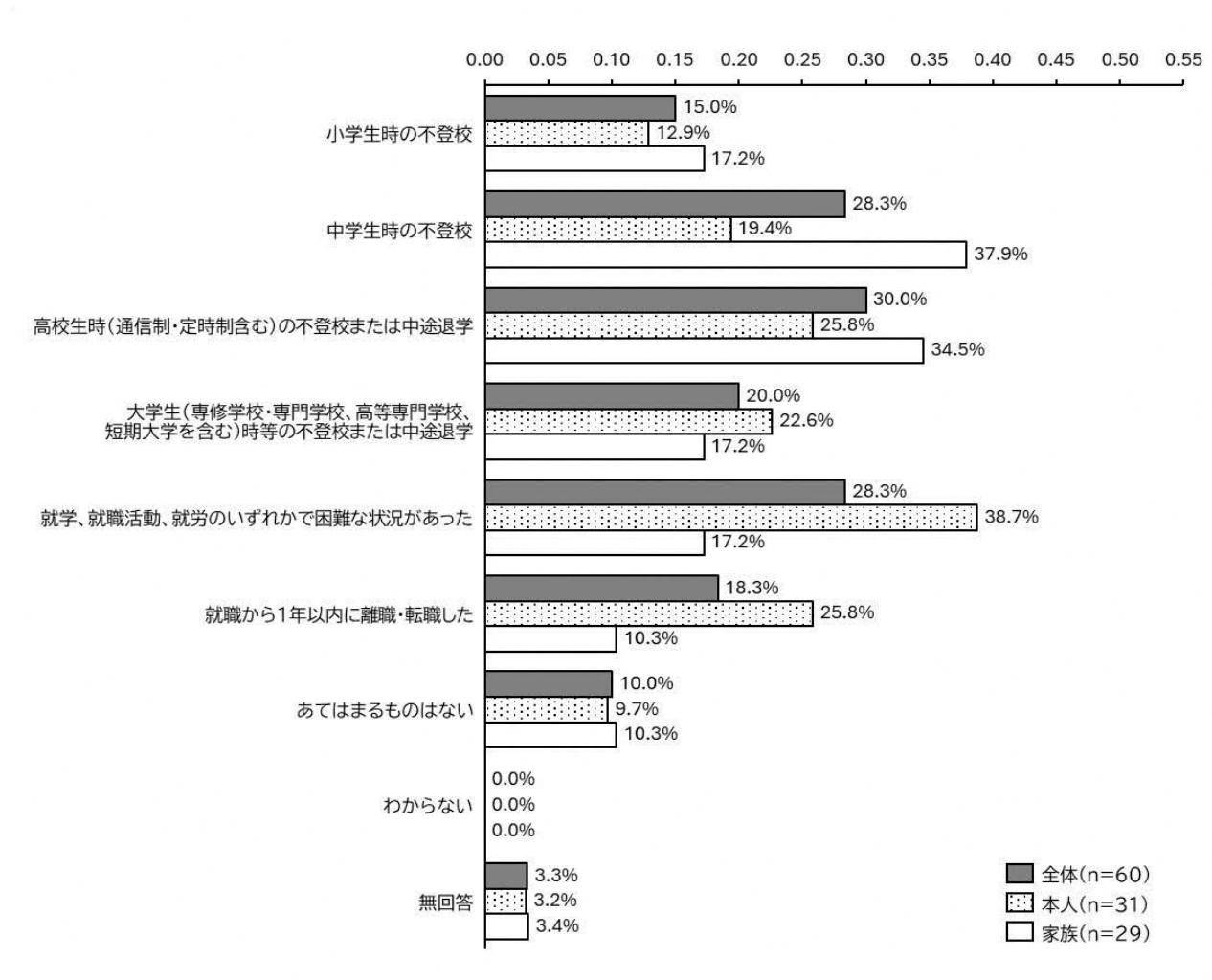
Q6 最終学歴(在学中を含む)



「高等学校」が 36.7%で最も多く、次いで「大学・大学院」33.3%となっている。推計調査のひきこもり群と比較して、特に「大学・大学院」が多い傾向がある。

2 不登校や就労困難等の経験

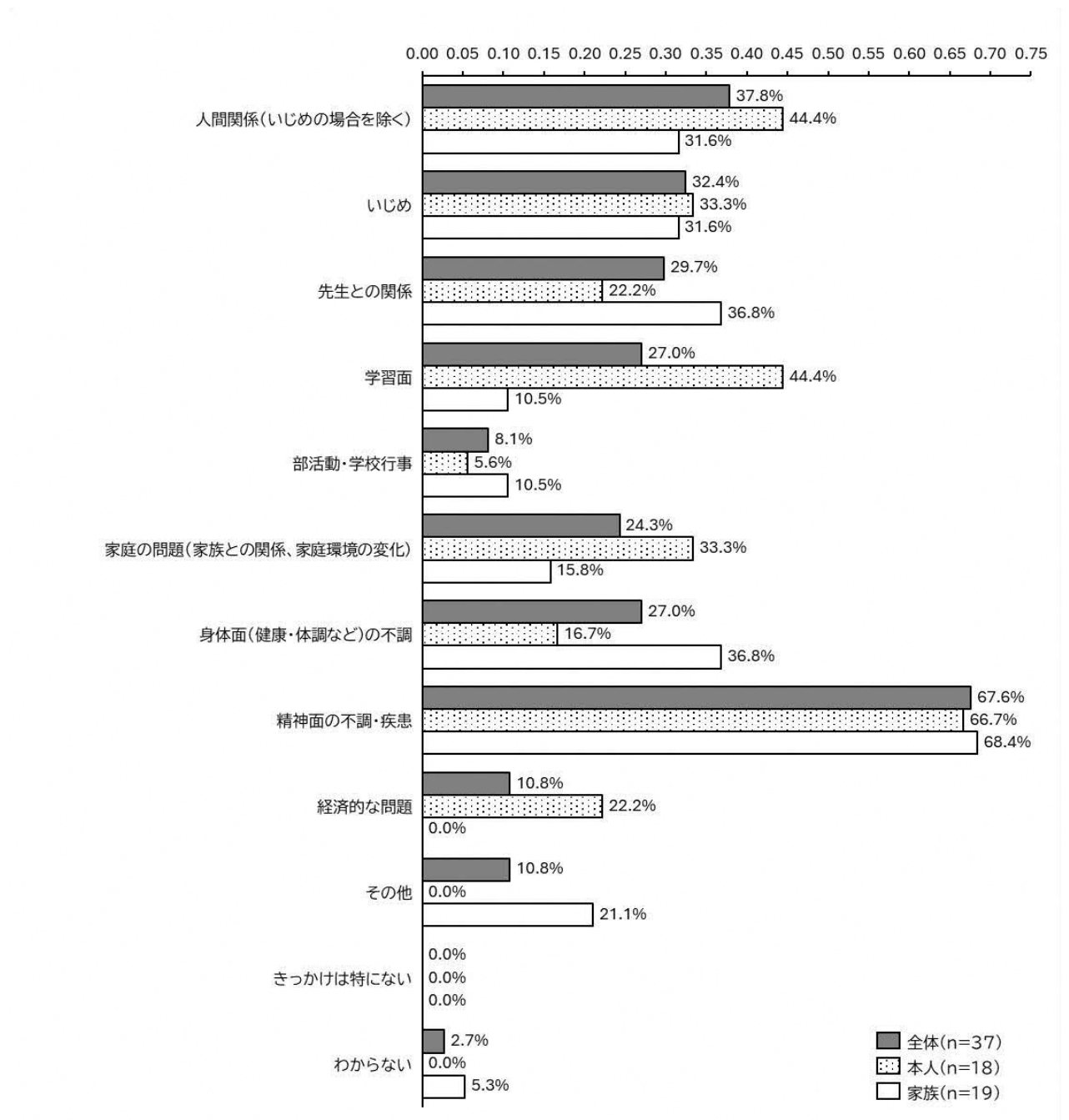
Q7 これまでに経験したこと(複数回答)



※Q8は、Q7において不登校の経験がある者(「1 小学生時の不登校」「2 中学生時の不登校」「3 高校生(通信制・定時制含む)時の不登校または中途退学」「4 大学生(専修学校・専門学校、高等専門学校、短期大学を含む)時等の不登校または中途退学」を選択した者)のみが回答する項目となっている。

3 不登校等になったきっかけ

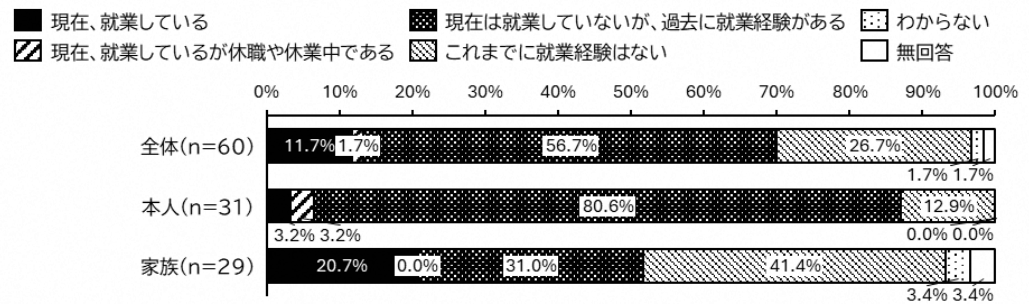
Q8 不登校等になったきっかけ(複数回答)



「精神面の不調・疾患」が 67.6%で最も多く、次いで「人間関係 (いじめの場合を除く)」 37.8%となっている。

4 仕事

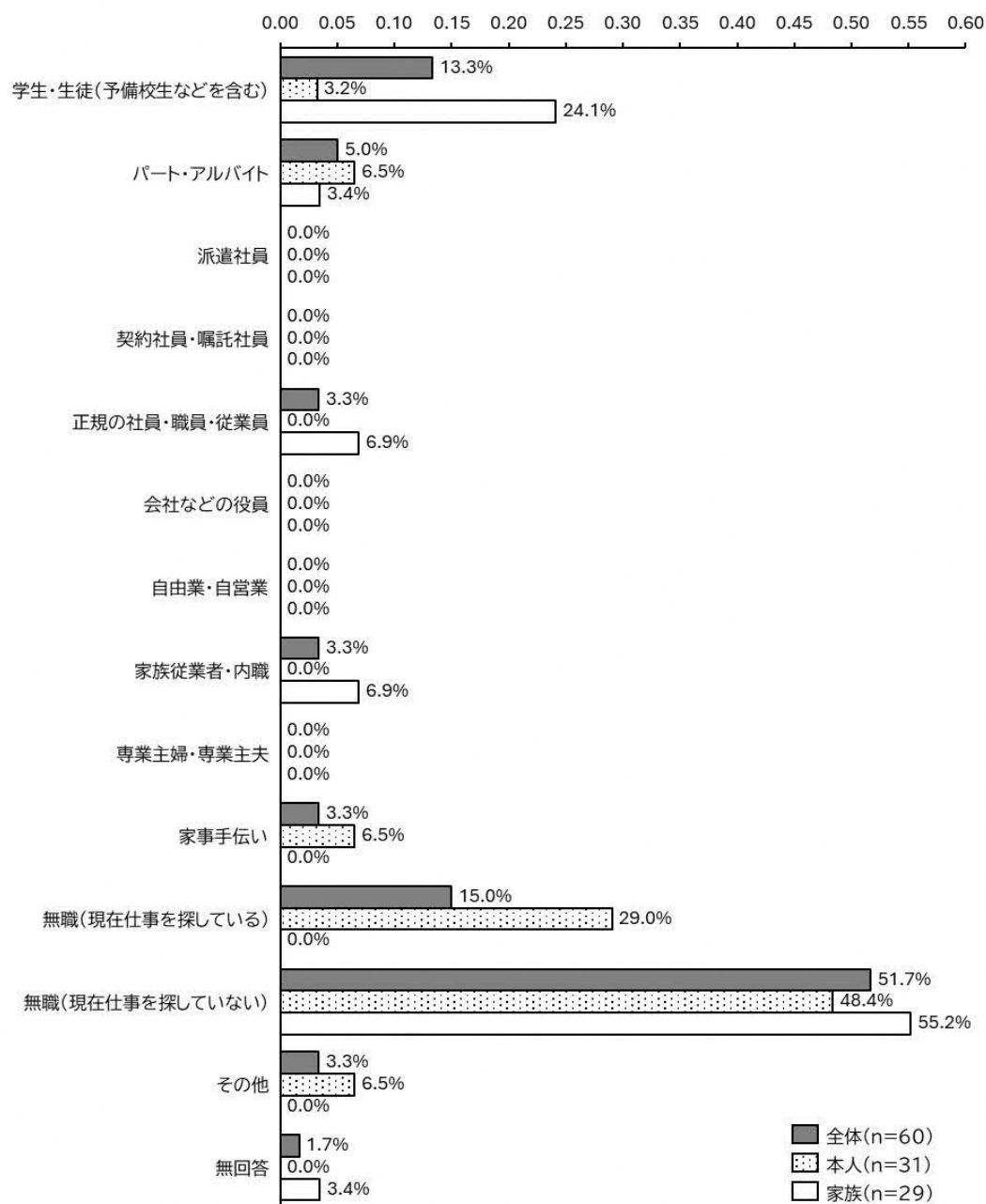
Q9 就業経験



「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」が 56.7%で最も多くなっている。

また、「これまでに就業経験はない」を選択した者の割合は 26.7%となっている。

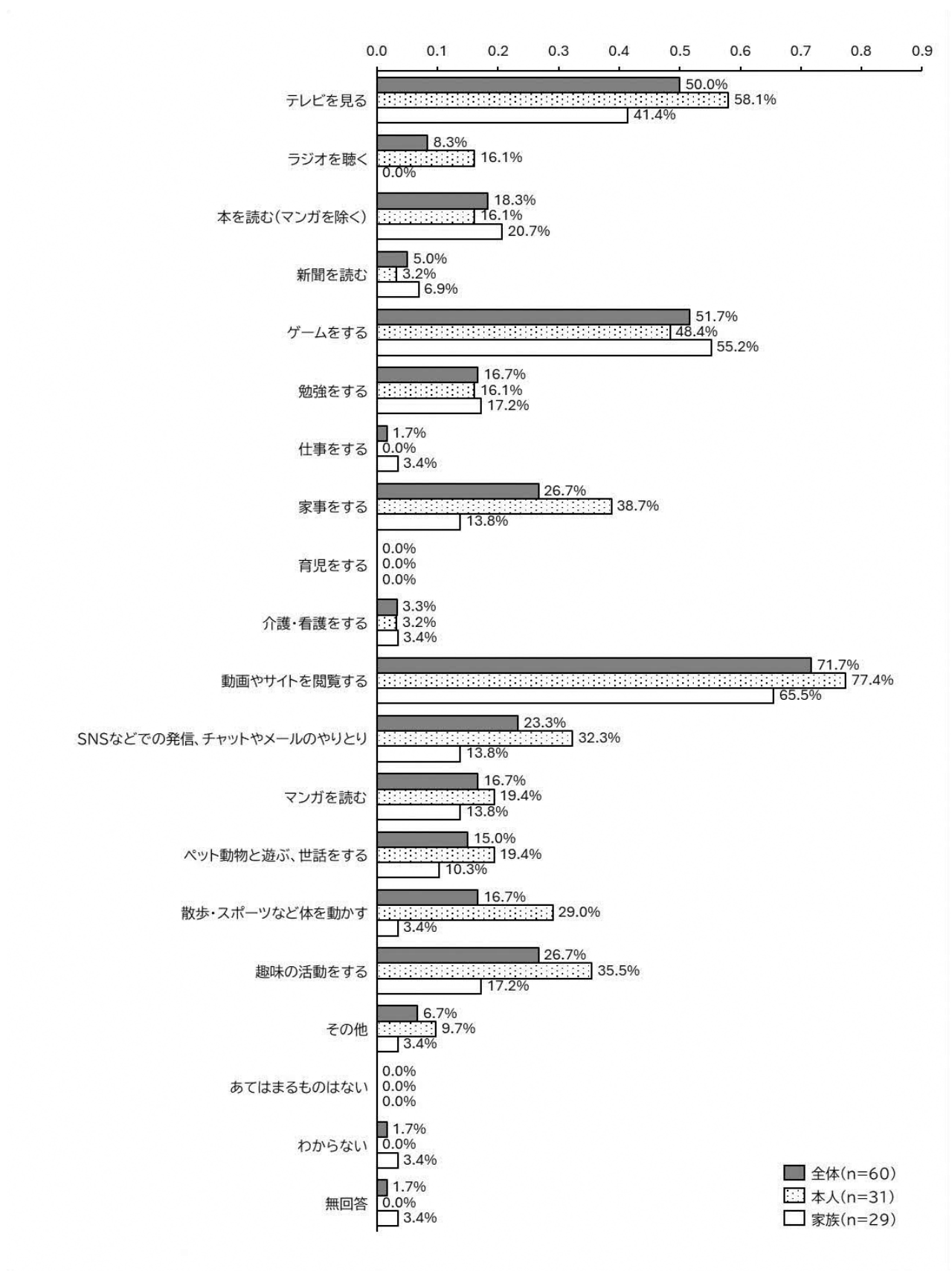
Q10 現在の仕事(学業を含む)



「無職（現在仕事を探していない）」が51.7%で最も多く、次いで「無職（現在仕事を探している）」15.0%となっている。

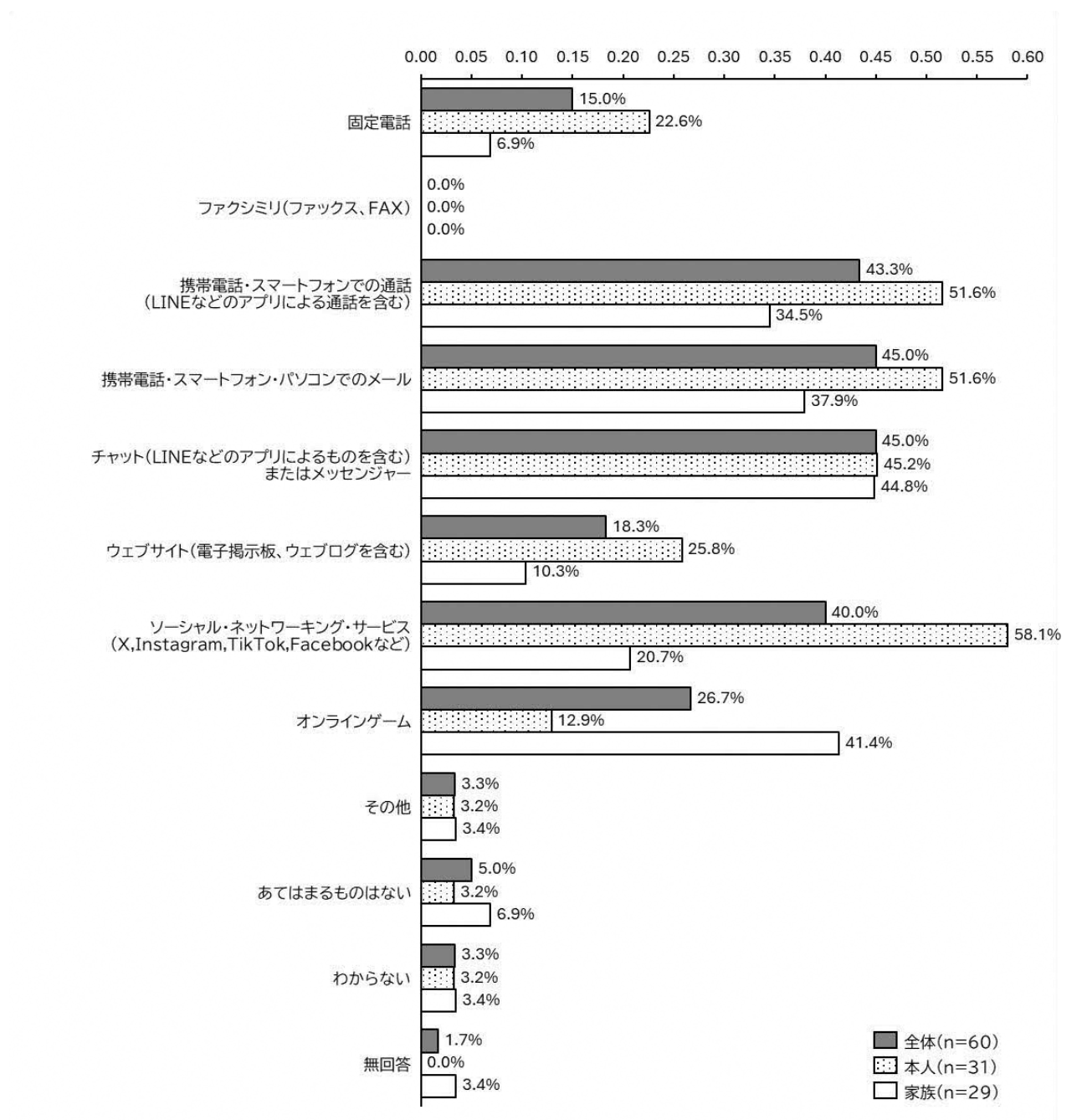
5 普段の生活

Q11 自宅にいるときによくしていること(複数回答)



「動画やサイトを閲覧する」が 71.7%で最も多く、次いで「ゲームをする」51.7%、「テレビをみる」50.0%となっている。

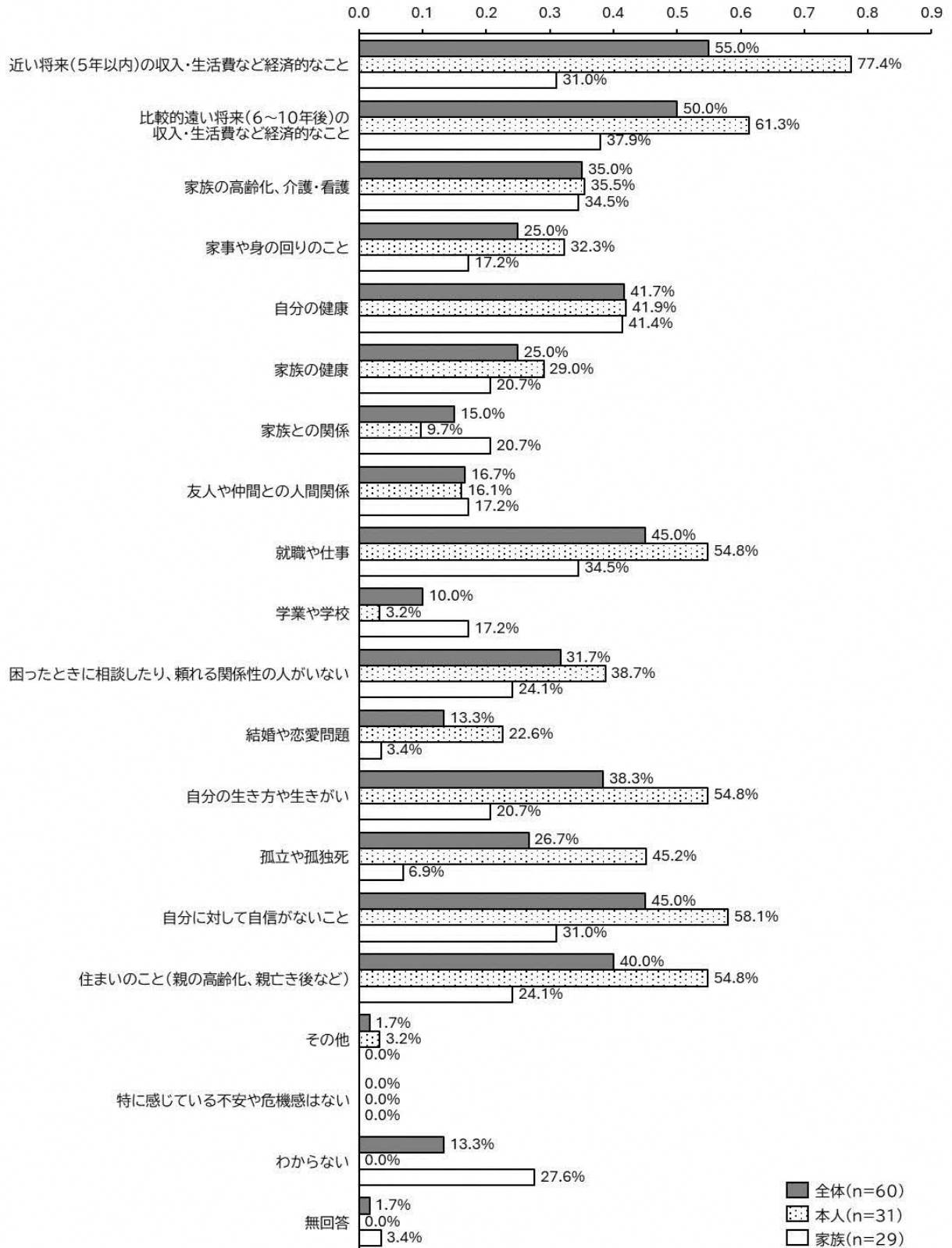
Q12 普段利用している通信手段(複数回答)



「携帯電話・スマートフォン・パソコンでのメール」と「チャット (LINE などのアプリによるものを含む) またはメッセージ」がそれぞれ 45.0%で最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォンでの通話 (LINE などのアプリによる通話を含む)」43.3%となっている。

6 不安や危機感

Q13 感じている不安や危機感(複数回答)

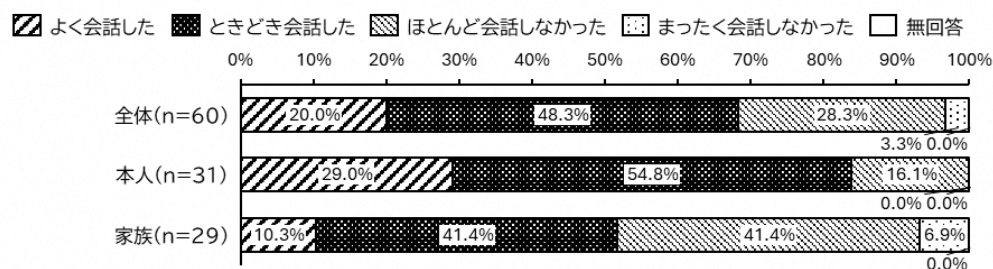


「近い将来（5 年以内）の収入・生活費など経済的なこと」が 55.0%で最も多く、次いで「比較的遠い将来（6～10 年後）の収入・生活費などの経済的なこと」が 50.0%となっている。

本人回答に着目すると、「近い将来（5 年以内）の収入・生活費など経済的なこと」が 77.4%で最も多く、「比較的遠い将来（6～10 年後）の収入・生活費など経済的なこと」、「就職や仕事」、「自分の生き方や生きがい」、「自分に対して自信がないこと」及び「住まいのこと（親の高齢化、親亡き後など）」の各項目が 50%以上となっている。

7 家族以外の人との会話

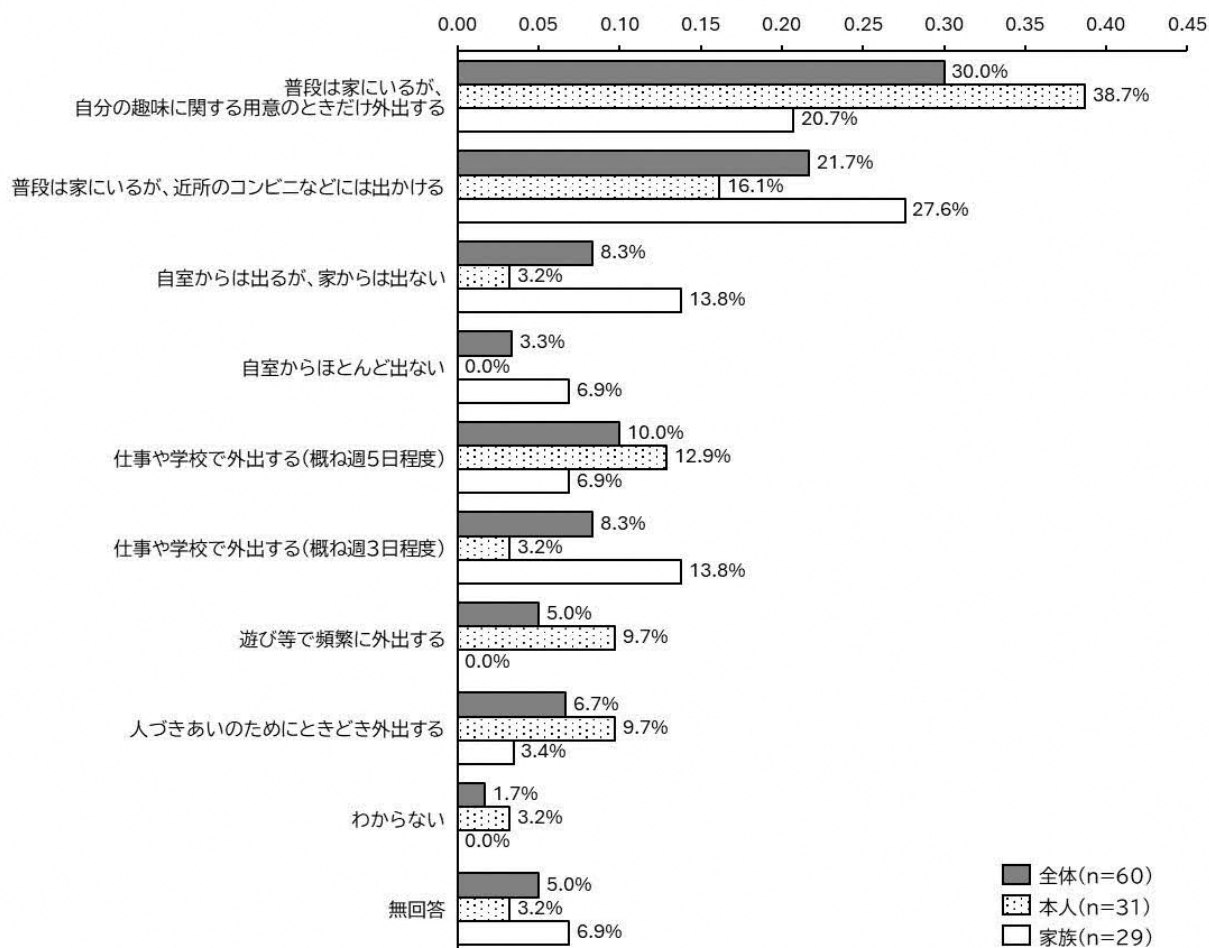
Q14 家族以外の人と会話したか(最近 6 か月)



『会話した』（「よく会話した」＋「ときどき会話した」）が 68.3%、『会話しなかった』（「ほとんど会話しなかった」＋「まったく会話しなかった」）が 31.7%となっている。

8 外出

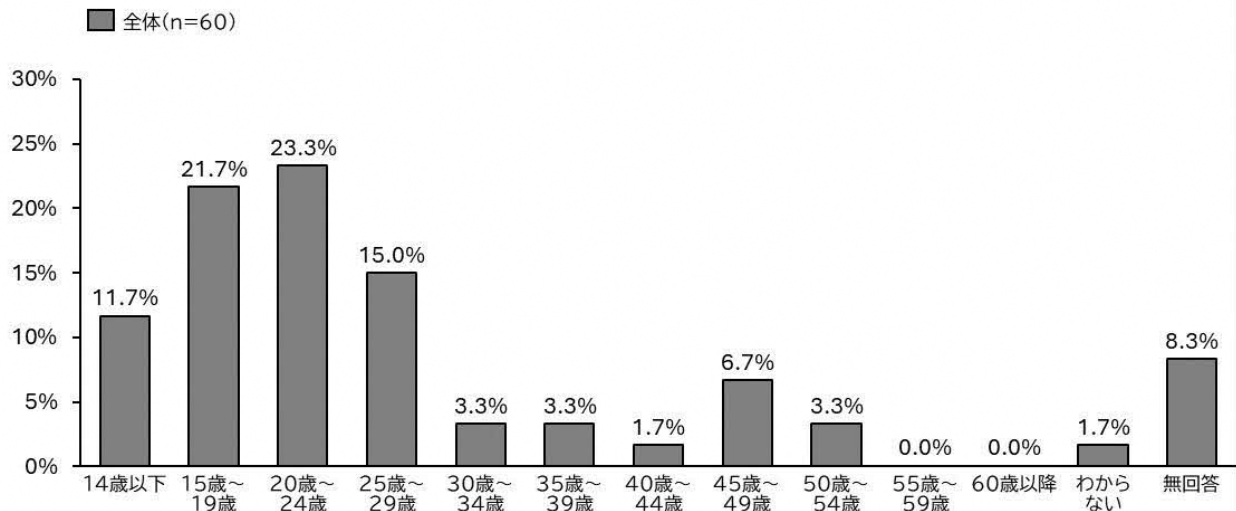
Q15 普段どのくらい外出するか



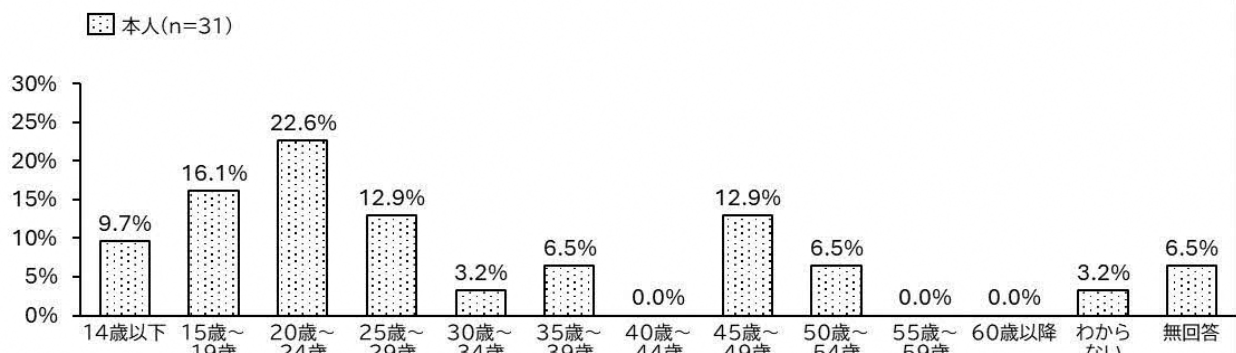
「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が 30.0%で最も多く、次いで「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」21.7%となっている。

Q16 現在の外出状況になったのは何歳の頃からか

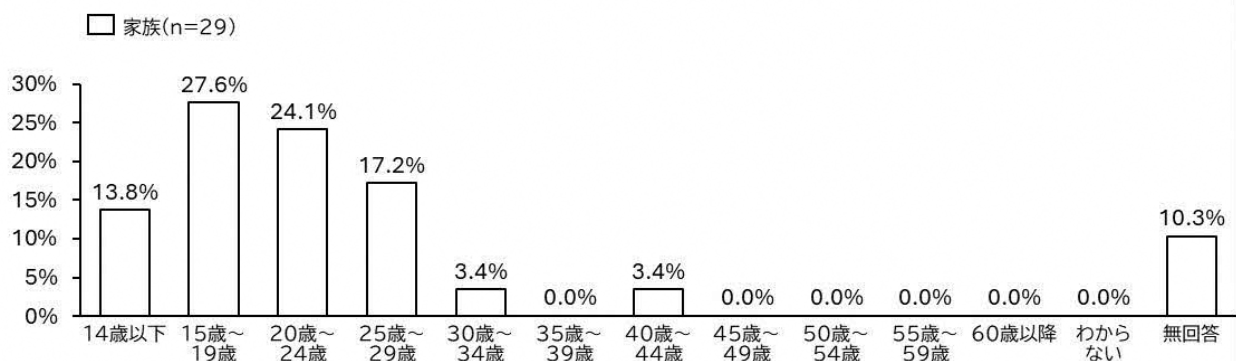
全体(n=60)



本人(n=31)



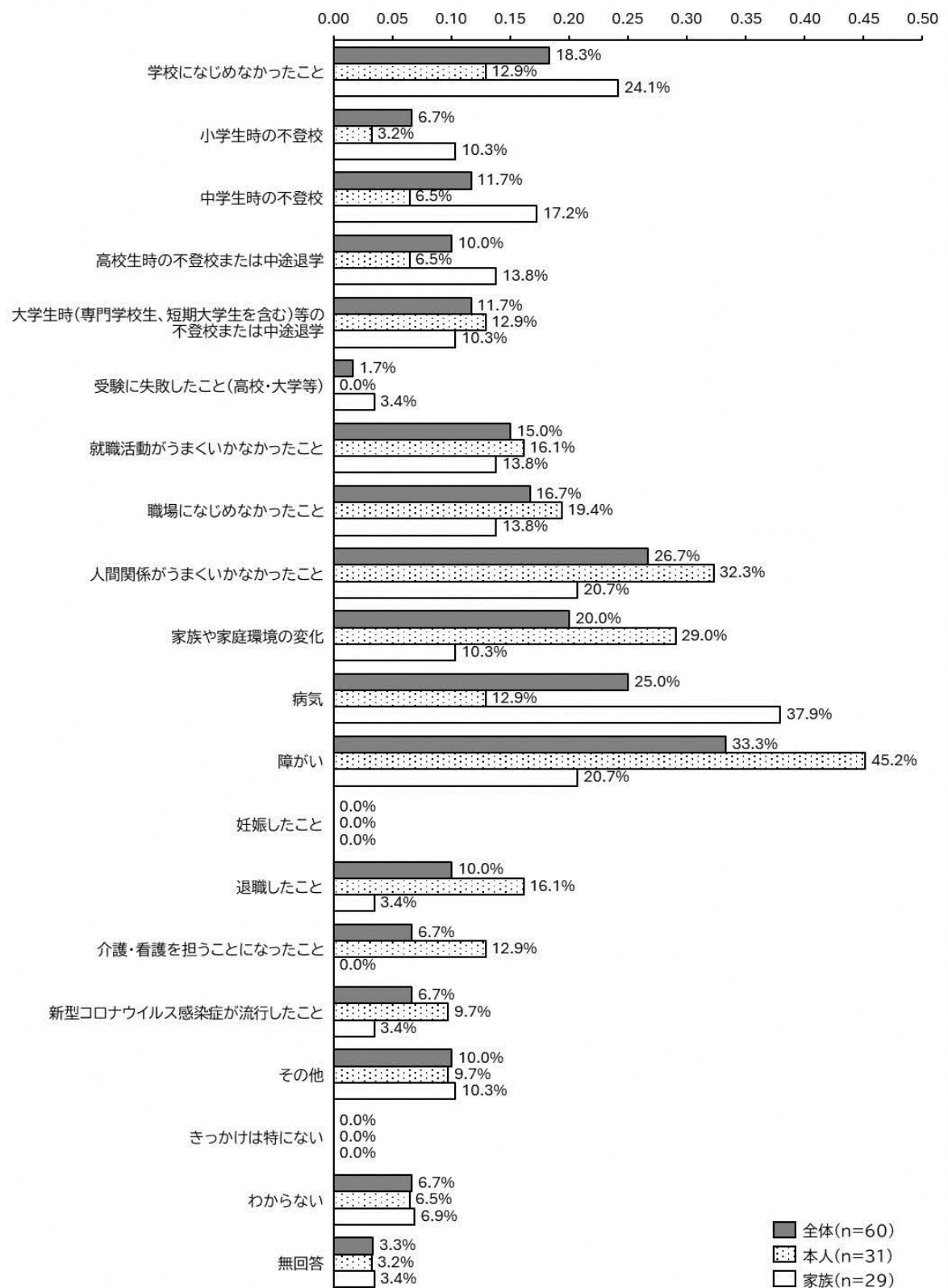
家族(n=29)



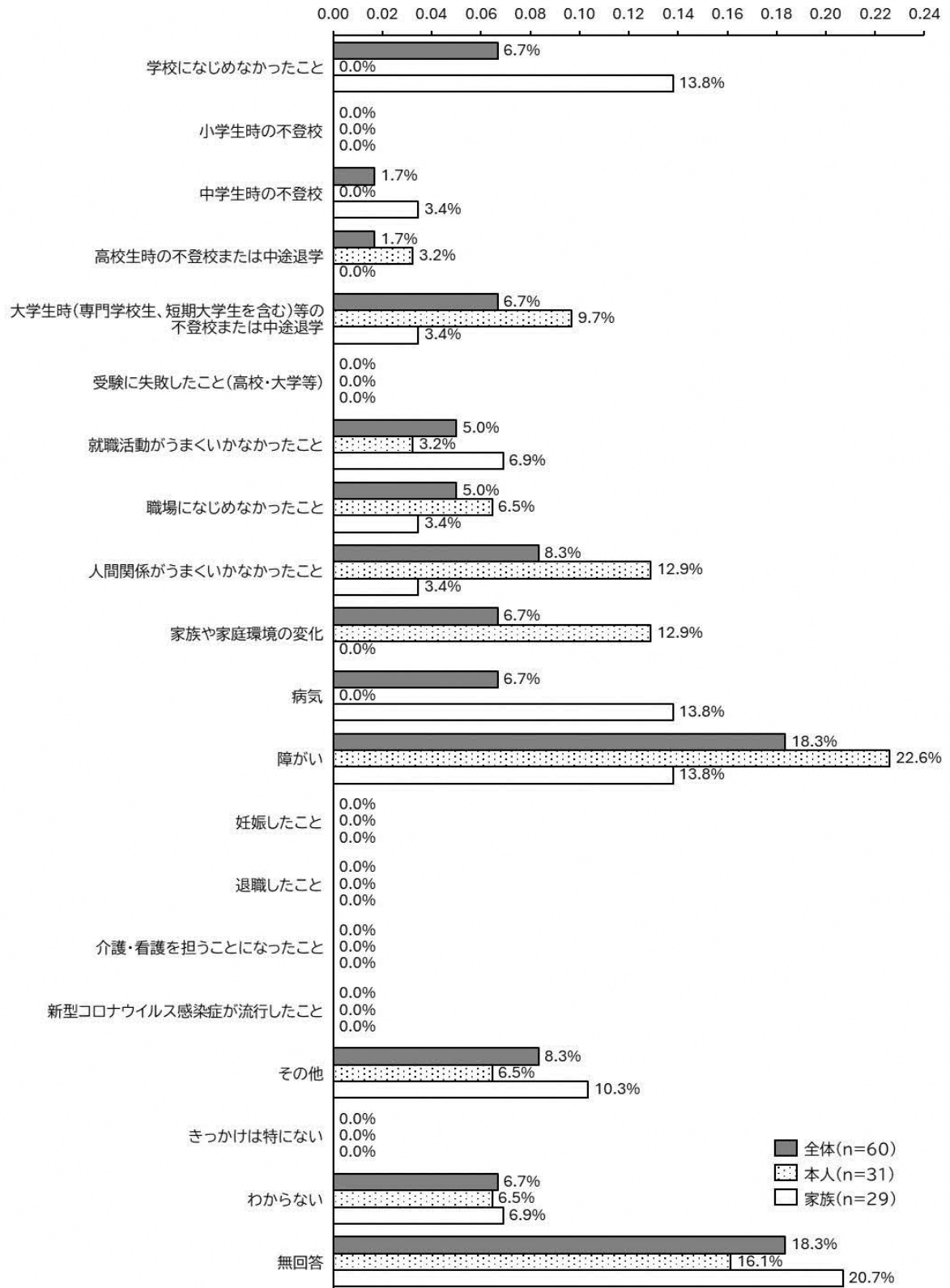
全体の 71.7%が 29 歳以下となっている。

なお、全体の 41.7%の者が現在 29 歳以下であることに留意する必要がある（Q2 より）。

Q17 外出状況が現在の状態になった主な理由(複数回答)



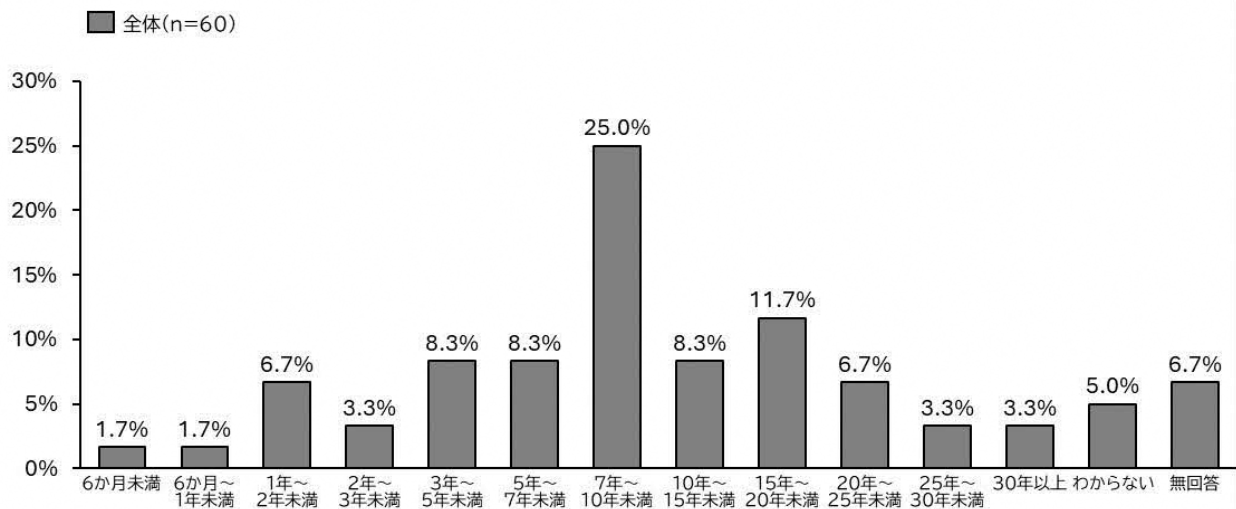
最も大きな理由



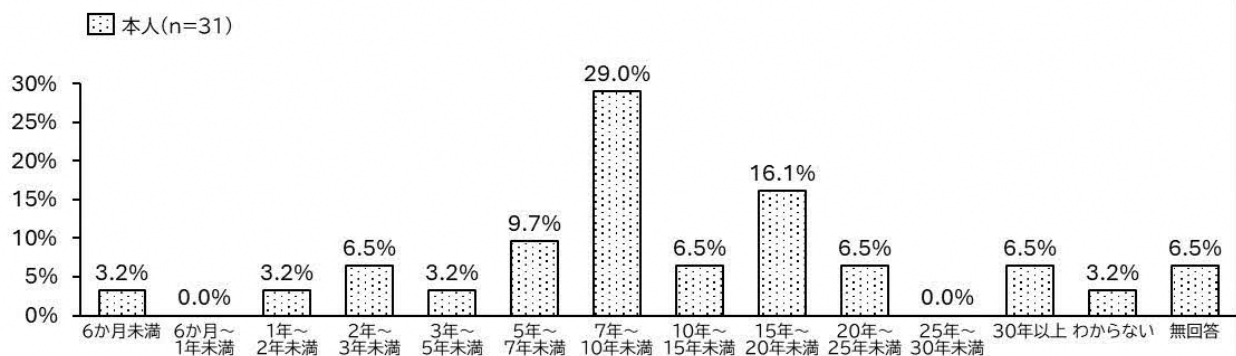
「障害」が 33.3%で最も多く、次いで「人間関係がうまくいかなかったこと」26.7%、「病気」 25.0%となっている。

Q18 現在の外出状況になってどのくらい経つか

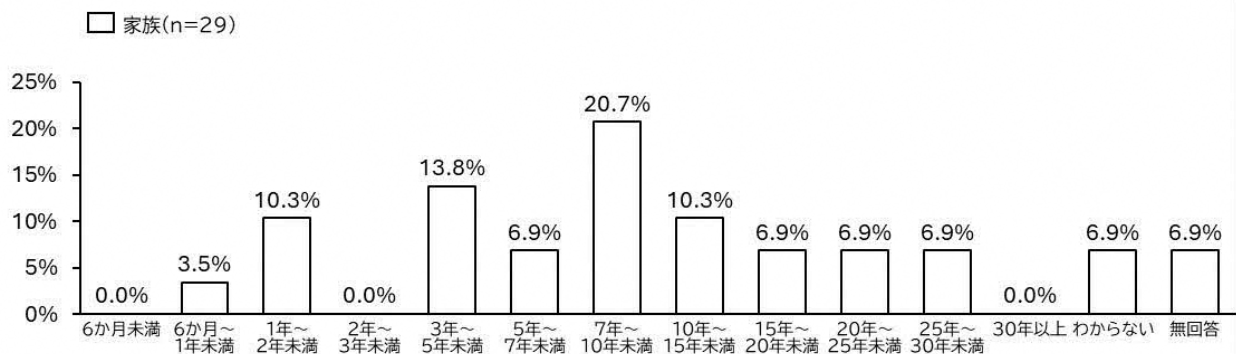
全体(n=60)



本人(n=31)



家族(n=29)



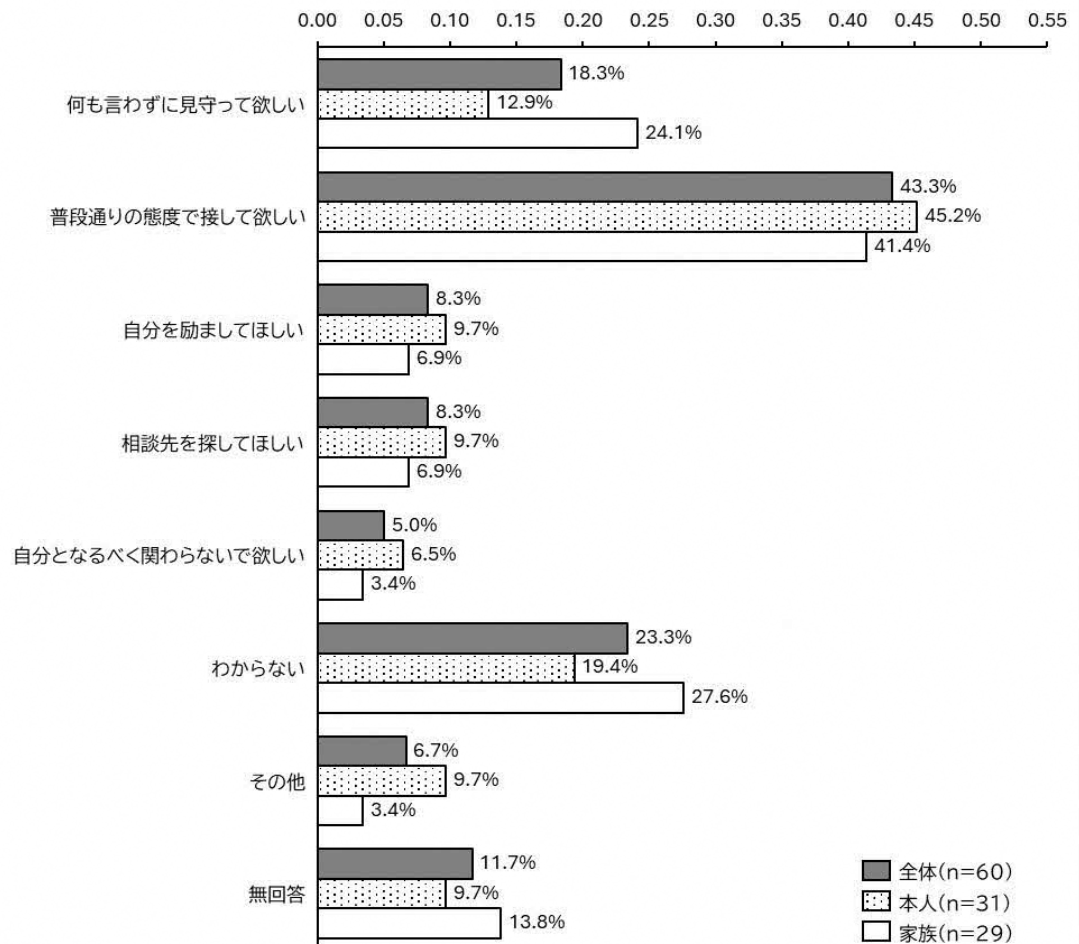
5年未満が21.7%、5年～20年未満が53.3%、20年以上が13.3%となっている。

推計調査のひきこもり群と比較して、ひきこもり状態が長期化している者が多い傾向がある。

9 接し方の希望

Q19 どのように接して欲しいか

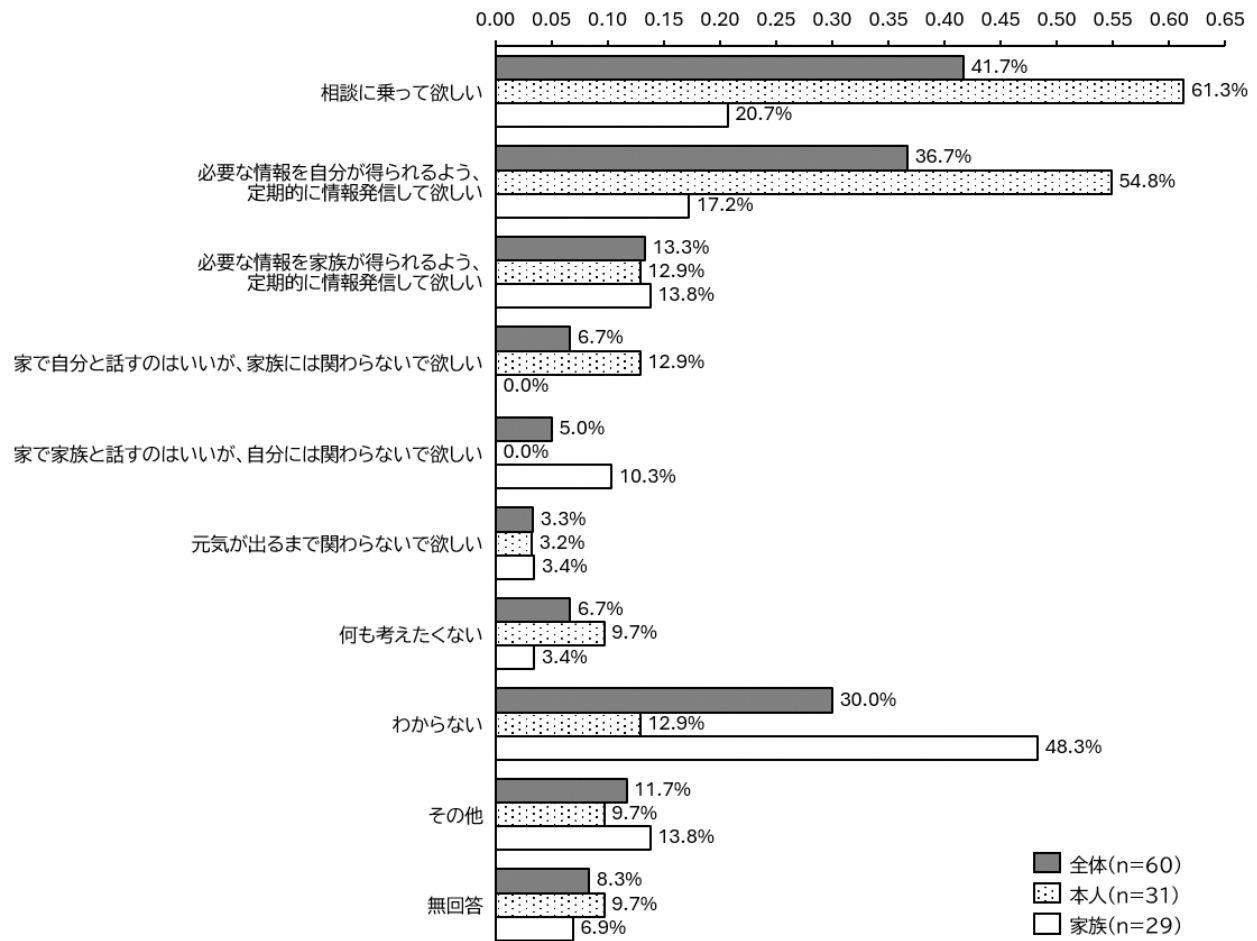
(1) 家族について(複数回答)



「普段通りの態度で接して欲しい」が 43.3%で最も多く、次いで「わからない」23.3%、「何も言わずに見守って欲しい」 18.3%となっている。

Q19 どのように接して欲しいか

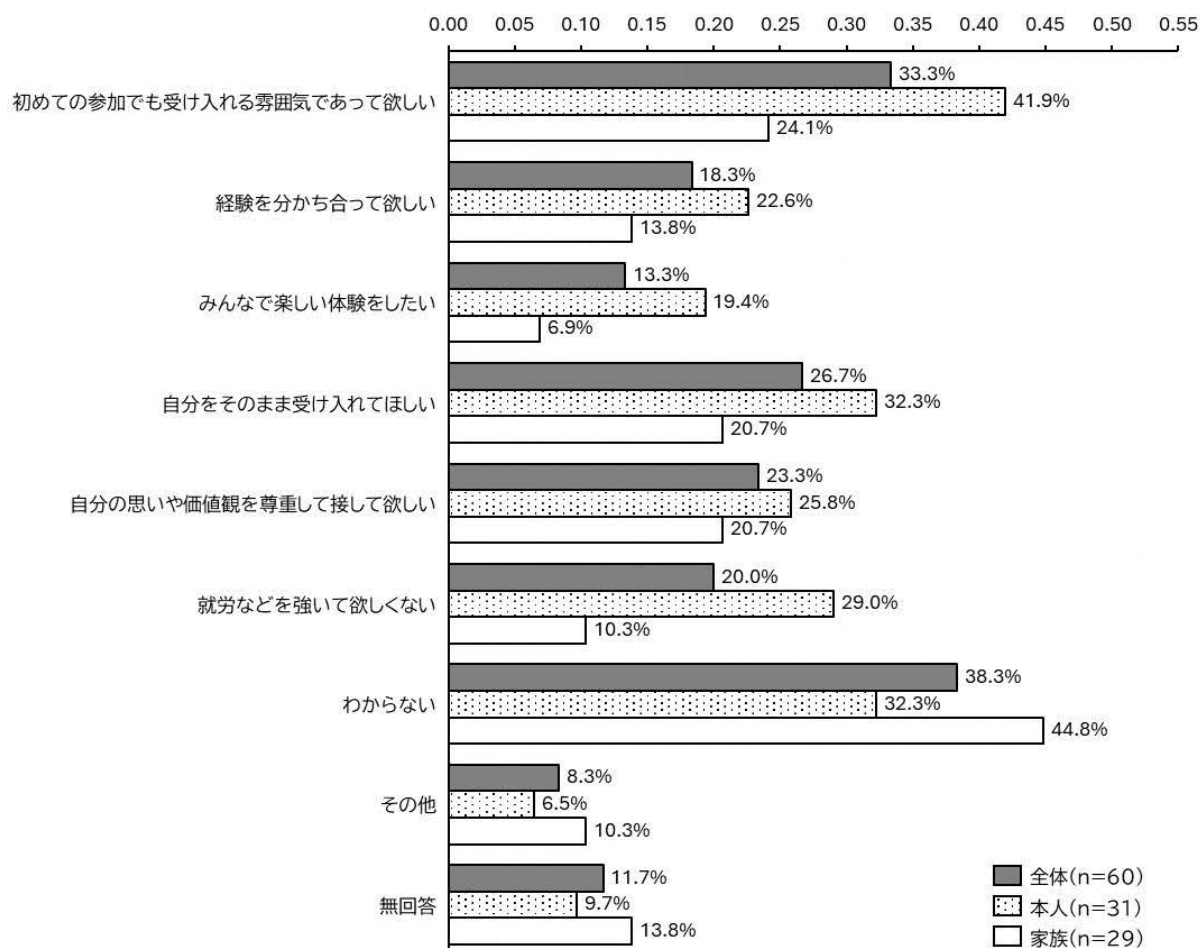
(2) 支援機関について(複数回答)



「相談に乗って欲しい」が 41.7%で最も多く、次いで「必要な情報を自分が得られるよう、定期的に情報発信して欲しい」36.7%となっている。なお、本調査の対象は「セーフティネットあだち」や「足立ひきこもり家族会」につながったことがある者であることに留意する必要がある。

Q19 どのように接して欲しいか

(3) 当事者会・家族会について(複数回答)

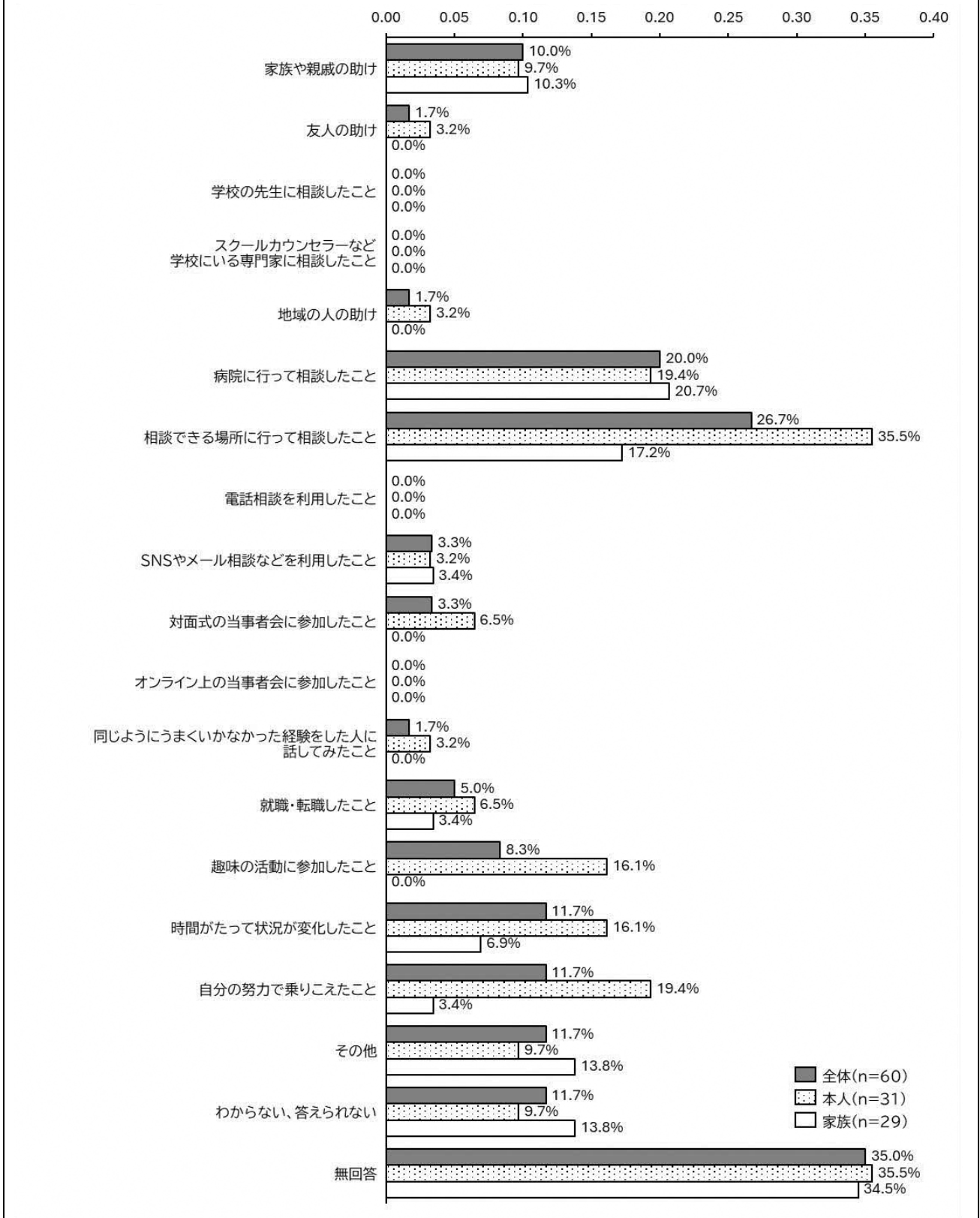


「わからない」が 38.3%で最も多く、次いで「初めての参加でも受け入れる雰囲気であって欲しい」33.3%となっている。

なお、本人回答では「初めての参加でも受け入れる雰囲気であって欲しい」が 41.9%で最も多くなっている。

10 状態が改善したきっかけや役立ったこと

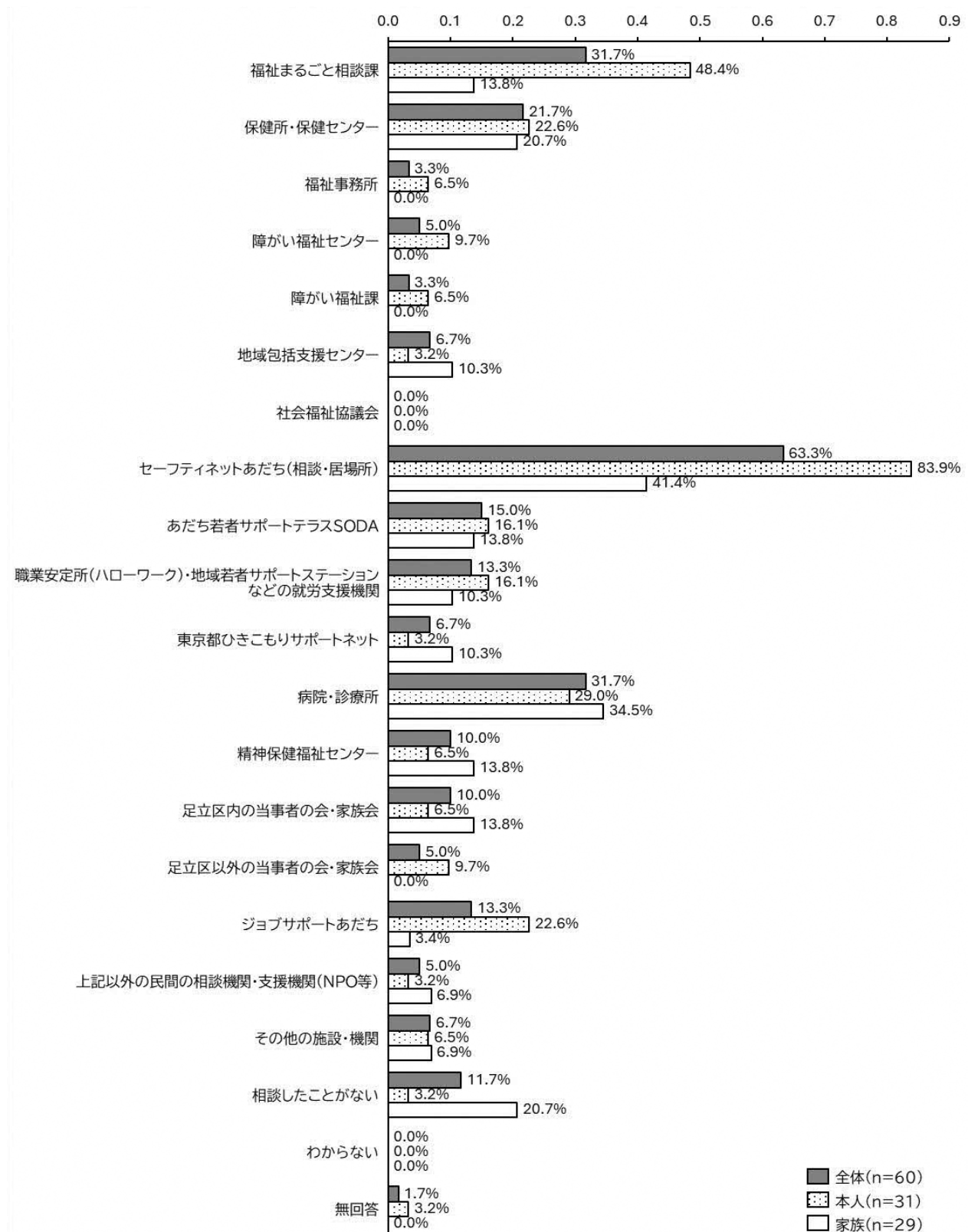
Q20 状態が改善したきっかけ・役に立ったこと(複数回答)



「相談できる場所に行って相談したこと」が 26.7%で最も多く、次いで「病院に行って相談したこと」20.0%となっている。

1.1 関係機関

Q21 相談したことがある関係機関(複数回答)

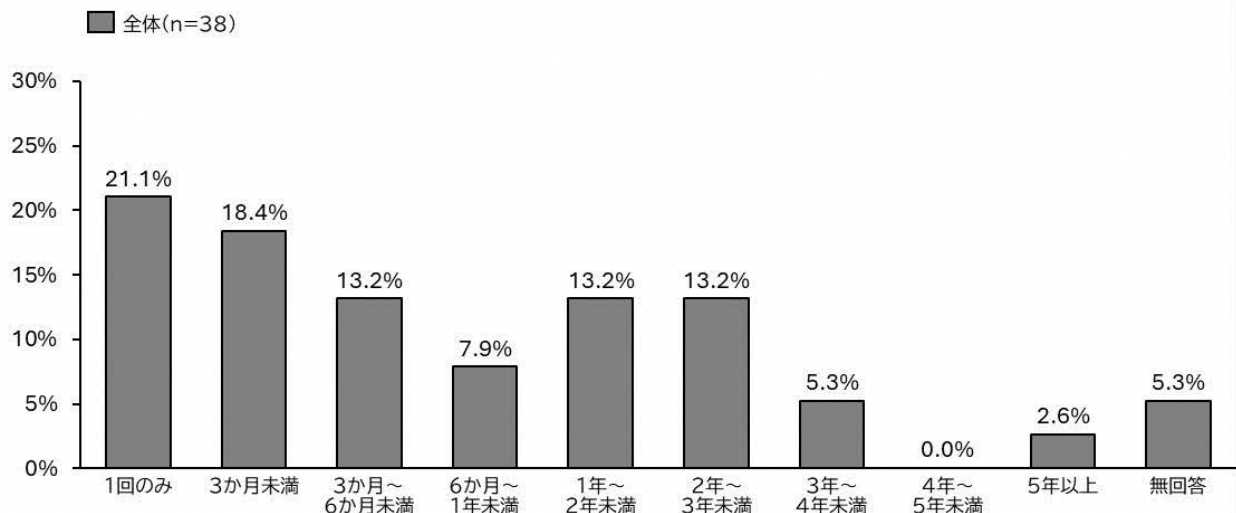


「セーフティネットあだち(相談・居場所)」が63.3%と最も多く、次いで「福祉まるごと相談課」と「病院・診療所」がいずれも31.7%となっている。なお、本調査の対象は「セーフティネットあだち」や「足立ひきこもり家族会」につながったことがある者であることに留意する必要がある。

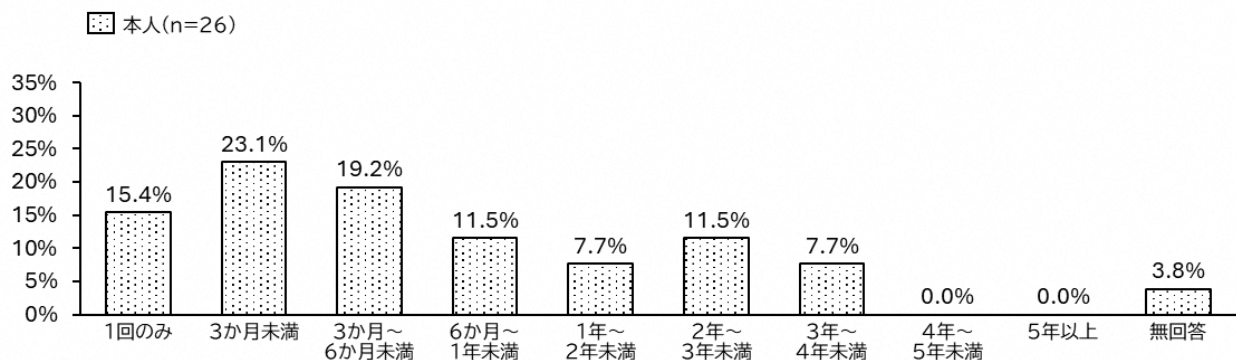
※Q22～24 は、Q21 においてセーフティネットあだちへの相談経験がある者(「8 セーフティネットあだち(相談・居場所)」を選択した者)のみが回答する項目となっている。

Q22 セーフティネットあだちへの相談・利用期間

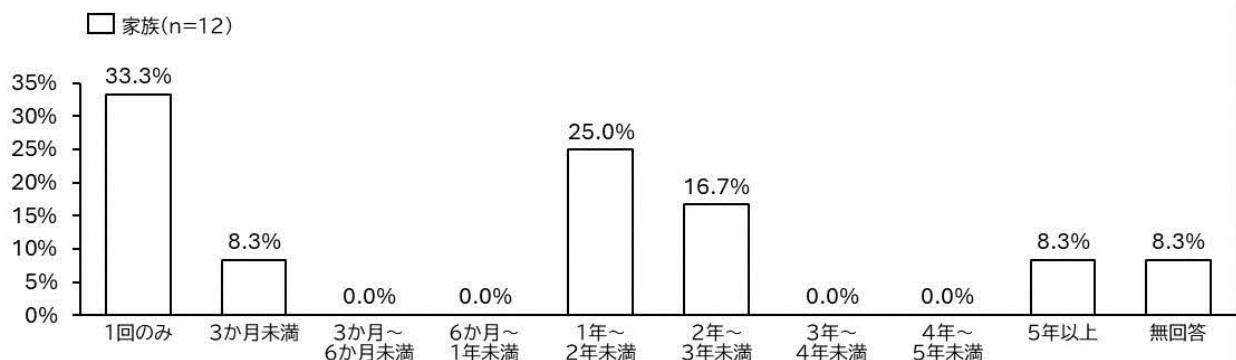
全体(n=38)



本人(n=26)

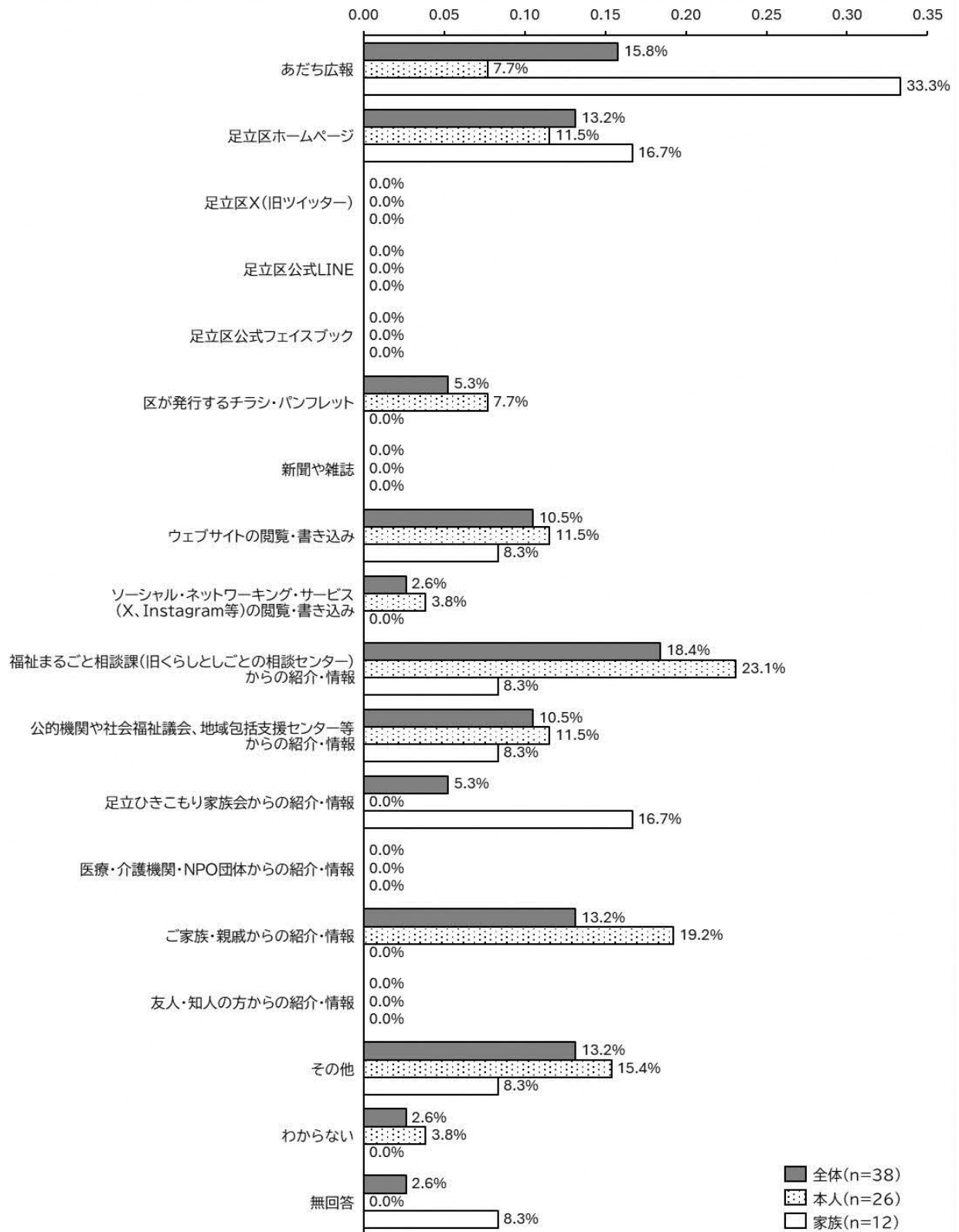


家族(n=12)



「1回のみ」が21.1%と最も多くなっている。また、全体の39.5%は『1年未満』(「3か月未満」+「3か月～6か月未満」+「6か月～1年未満」)となっている。

Q23 セーフティネットあだちを知ったきっかけ(複数回答)



「福祉まると相談課（旧くらしとしごとの相談センター）からの紹介・情報」が18.4%と最も多く、次いで「あだち広報」15.8%となっている。

Q24 セーフティネットあだちについての意見・感想

以下では回答の一部を抜粋した。なお、基本的に原文のまま掲載しているが、回答から個人が特定できないよう一部加工している。

本人

セーフティネットあだちを送ってもらえて、頼もしいと思います。

どのスタッフも、親切に接してくれて安心する。

- ・個別相談を担当制にしてほしい。

通って2ヶ月ほどになるが、行くまで誰とお話するか分からず、いまだに緊張して慣れない。

行くたびに新しい方とお話するのも、ひきこもりにはハードルが高い。

- ・職員さんはみなさん親切だが、一定の距離感を感じる。親身な対応というより、プロトコールに沿って職務を全うされている印象。

居場所というより、とりあえずの一時休憩場所、支援施設斡旋所という印象。

温度がない。冷たい。

居心地をあまり良くしないことで長居をさせない対策なのかもしれないが、家以外の安心できる居場所を求めて伺った者としては、心のつながりや安心感が感じられず、残念。

- ・普段外出しないひきこもりの方が、外に出る練習として、こちらを利用するのは良いかもしれない。

私のような外出できるひきこもりが、就労支援への移行や社会復帰などを目指したいという場合、こちらの利用だけでは、正直難しいのではないかと感じる。

次のステップに進むための寄り添いや並走する機能がこちらにはないからである。

就労に対しての不安を相談しても、「ここは就労支援はしていない」と毎回線引きをされて、通うたびに就労支援関連のパンフレットを山ほどもらえるが、結局自分1人で吟味して応募しなければならず、ハードルは依然として高いまま。

- ・月2回のイベントは楽しい。毎回職員さんから気楽に自分のペースでというアナウンスもあり、安心して参加できる。

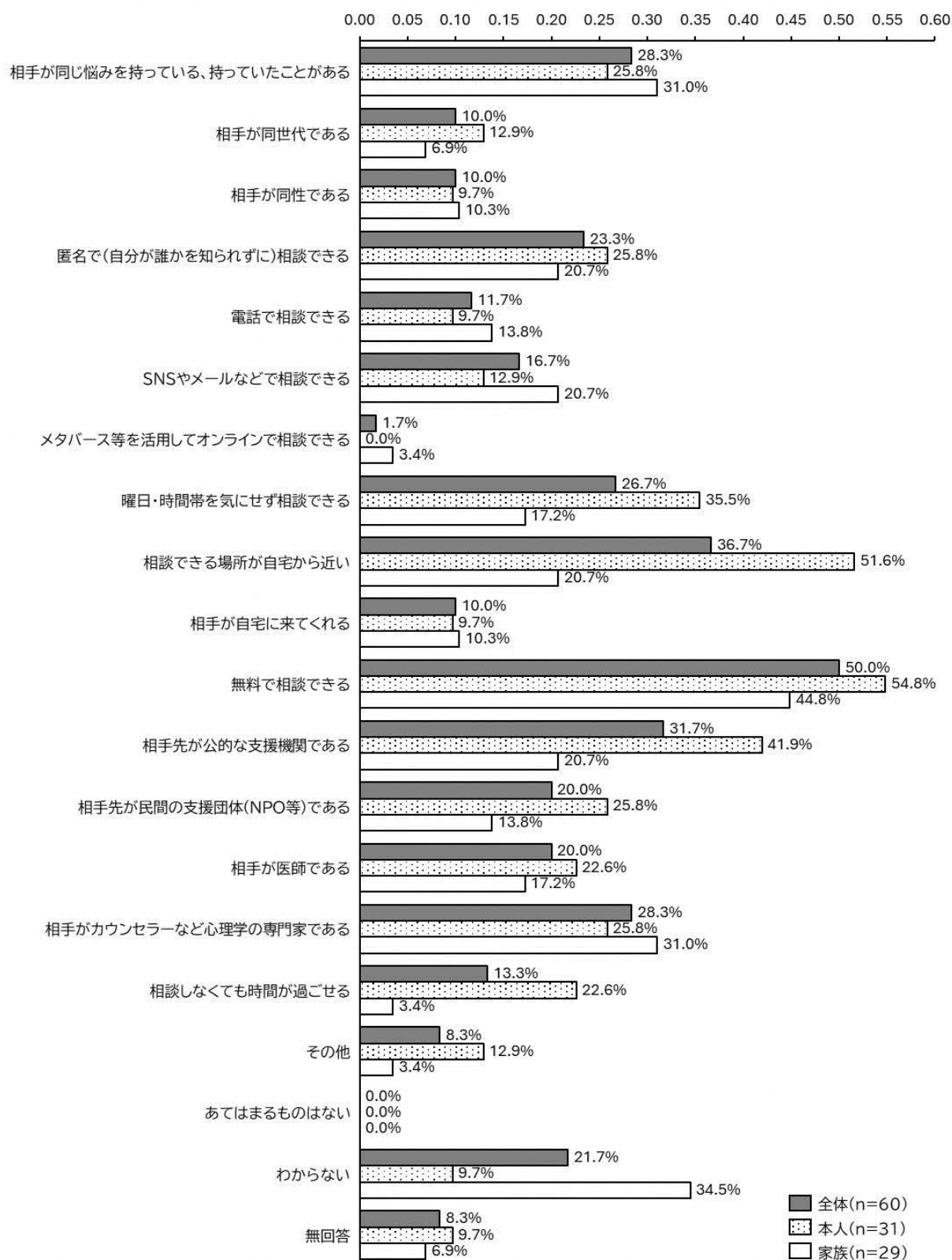
最近利用し始めましたが、場所も良く、2回イベントに出させて頂きましたが、楽しく過ごす事ができました。精神科のデイケアでとても悪い思いをした体験があるので、安心できる居場所の提供はありがたいです。

いつも元気をもらえて助けられています。

家族

母親です。子どもは利用を受け入れるまではいきませんが、拒否もしていません。親の私の方が教えられる事の方が多いです。セーフティネットさんには感謝しております。ありがとうございます。

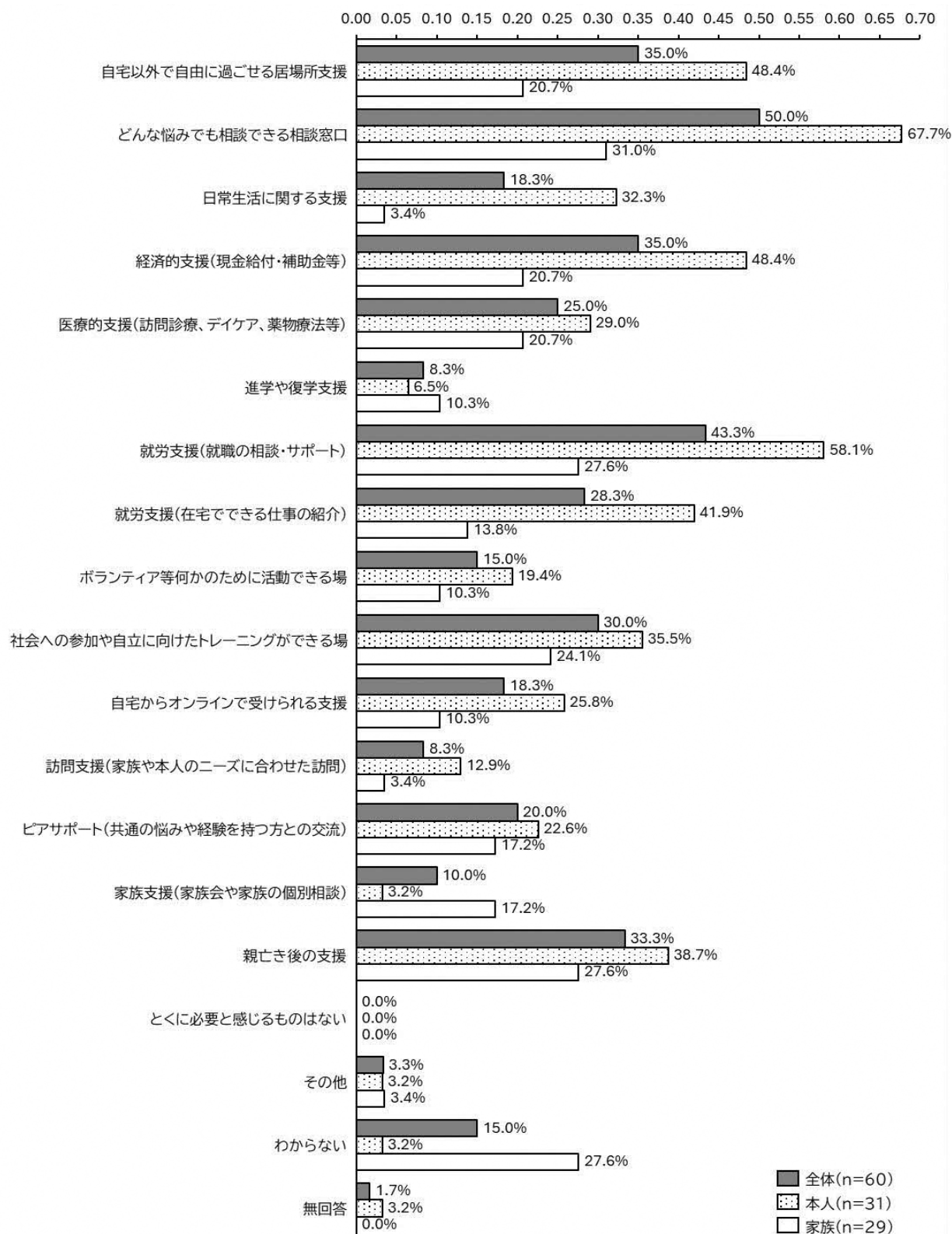
Q25 相談したいと思う関係機関(複数回答)



「無料で相談できる」が 50.0%で最も多く、次いで「相談できる場所が自宅から近い」 36.7%となっている。

1.2 必要としていること

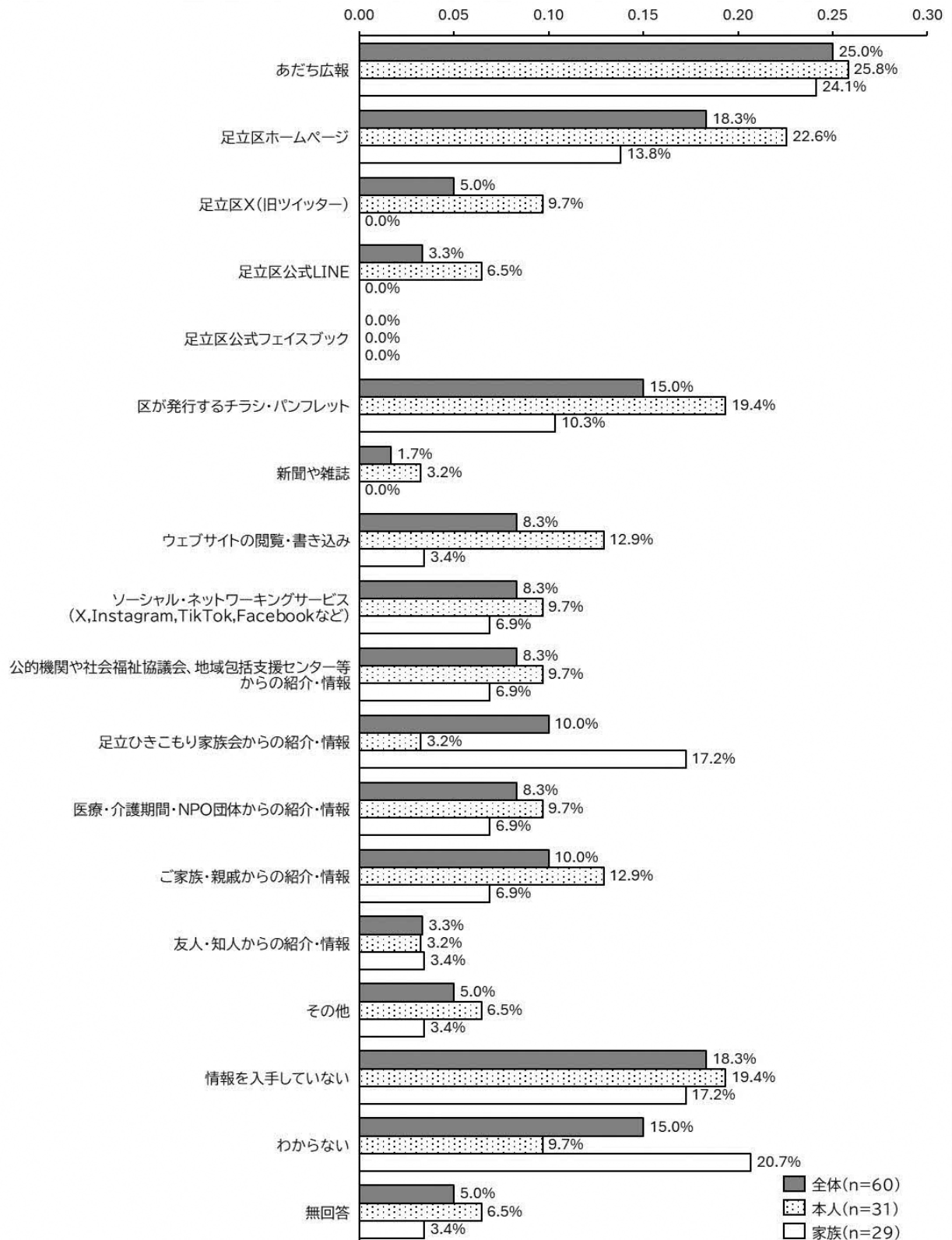
Q26 現在必要だと感じるもの(複数回答)



「どんな悩みでも相談できる相談窓口」が 50.0%で最も多く、次いで「就労支援(就職の相談・サポート)」43.3%となっている。

1.3 情報の取得手段

Q27 足立区の支援についてどのように情報を入手しているか(複数回答)



「あだち広報」が25.0%で最も多く、次いで「足立区ホームページ」18.3%となっている。

一方、「情報を入手していない」を選択した者も18.3%となっている。

14 悩みや困りごとを抱える方たちへの支援の在り方

Q28 悩みや困りごとを抱える方たちへの支援の在り方

以下では回答の一部を抜粋した。なお、基本的に原文のまま掲載しているが、回答から個人が特定できないよう一部加工している。

本人

障がい者だけでなく、手帳が無いけど障がいがある方にもお仕事や支援強化をもっとして欲しいです。

難しい事だと存じてはいますが、相談員の選出には注意してほしいと思います。困っているから相談しに行くのであって、相談を正論で叩き潰されに来ている訳ではないのは理解してほしいです。人によっては当たり前に行えるだろう事ができない人もいます。それが出来ないなら生きられなくても仕方ないという考えなら、安楽死の権限をください。

良い意味で人の気持ちが分からないで欲しい。事実を事実としてただ受け止めて欲しい。

困り事を抱えている人が、自分から支援を捜し出して声を上げなければならない仕組みは、心身の状態によっては難しい場合があるので、支援が必要としていても声を届けられない人を、行政側から拾い上げる仕組みがあればありがたい。また、うつなど心の不調を抱えた女性が、安心して過ごせる居場所や相談先が見つけにくいと感じる事があり、そうした場所や情報の充実を期待します。

話を聞くのが何より。

支援を受けるまでの手続きが分かりやすくなると嬉しい。

仕事で自立できるくらい働かないといけないけど、メンタル等でなかなか前へ進めない。親亡き、現在介護費用（母の）で、住まいが無くなるので、この先どうしたらいいか。障害年金を受けられるよう、間口を広くしてもらいたい。

家族

相談に行っても話を聞いてもらえるだけで、具体的な解決方法を提示してもらえなかったため、あまり意味なく感じた。具体的なアドバイスを、その場でしてもらえるような所があればいいと思った。

母親より。生活保護を本人が受けられるように行きましたが、姉が居るし家があるからと断られました。私が若かった頃と違い、今は一緒に暮らしていても姉のは姉の金であり、家があったって家は古いです。家賃を下さいとは言っていない。昔はバイトしたお金も親に渡してこづかいを少しもらうという生活でした。後期高齢で微々たる年金で娘も養っています。月2～3万円のバイトをやらないと、娘を養っていくのにギリギリです。

ひきこもりにはいろんなタイプがあると思うが、ケーススタディ的な事例や改善した事例を紹介するような、サイトや冊子があるとありがたい。

中学生の時に こども支援センターげんきにも行きましたが、18歳になって訪問支援が終わり、いろいろな所に行きましたが本人が相談しない限り東京都の支援も出来ませんでした。NPO にもお願いしましたがお金ばかり掛かりました。毎月35,000円3年間 何にもかわらずでした。ひきこもり、不登校達は苦しんでいます。お金ばかり掛かり、ただただ毎日親は辛い悲しい思いでいっぱいです。親はこうして 鬱病にもなりました。誰も助けてはくれない辛い。もっと ひきこもりの現状などの支援をお願いしたいです！家族だけでは 解決できない。

訪問支援が少ないので、本人のニーズに合わせた訪問を希望します。また、小学生の支援が、成人達にも関わることからなのか、こども支援センターげんきがメインであり、実際に問い合わせても来所型のため、我が子のような外出困難なケースには対応が難しい。また支援や相談につながるまでにとっても時間を要するので、親としては本当に困っているときにタイムリーに相談にのってもらえない印象があります。たくさんの症例に対応しなければならないとは思いますが、外出困難なケースは親子ともに孤立している気持ちになるところがあります。より多くのサポート方法の改善を希望します。

1.5 望ましくない接し方

Q29 望ましくないと思っている接し方

以下では回答の一部を抜粋した。なお、基本的に原文のまま掲載しているが、回答から個人が特定できないよう一部加工している。

本人

家に押しかけてくるのに迷惑しています。

支援者の方などに相談した時に、しんらつな言葉を言われる事。寄り添って欲しくない。

私は自ら支援を拒む破壊的な衝動に駆られることがあります。私が本当に望ましくない接し方は、私のその行動を「誠実さを前提として受け入れてしまうやり方」です。

せっかく自分で前向きな気持ちになって行動に移したい時に、「こちらの施設では出来ません」とか、何も考えずに回答するのは良くないと思いました。別に「要望を叶えてください」「聞いてください」と言っているのではありません。一緒に考え、お互いが歩み寄って、どうしたら要望や希望どおり少しでも近づける環境で、接して欲しいと思いました。

相談員の方も人間だとはわかっていますが、逆に相談に来る人間を人間だと思っていないのでは？という人も見受けられます。仕事でやっている事ですからストレスも溜まるでしょうし、好きでやっている訳でもないでしょうし、また適性があるやっている人ばかりでもないでしょうから、こういった擦れ違いは仕方ないとはわかっています。ですが、それでも言われた心無い言葉は酷く忘れにくいものです。出来て当たり前、そんな訳がない、家族に見捨てられたらどうするの？まるで脅しのように言われた事、愛想笑いで流しながら堪えた事を覚えています。本当に心に深い傷を負った人があんな事を言われたら、人生を諦めてしまうのではないのでしょうか。あのような相談員が他の部署へと移動してくれる事を祈るばかりです。

自分の悩みとか落ち込みとかを、「わたしもそういうときある」「みんな持ってる悩みだよ」みたいな共感をされると、大したことないって思われちゃってるんだと感じます。自分と支援者さんとに同じ内容の悩みがあっても、その悩みの大きさは全然違うと思うので、自分の話を受け止めてほしかったなと思いました。

可哀想だと共感しすぎて、支援者に泣かれること。

適応障がいを抱えており、物事を一人で抱え込み自分だけで何とかしようとしてしまう傾向があります。そのため、困り事があっても援助要請を出すことが難しいと感じる事があります。本人から声を上げられない場合でも、定期的な声かけや、見守り、さりげない確認などがあるとありがたいです。

あまりしつこく来ないでほしい。

同じ目線で対等に接して欲しい。

家族

今の自分を否定する言動。

16 一歩踏み出すきっかけ

Q30 一歩踏み出すきっかけがあればいいなと思っていること

以下では回答の一部を抜粋した。なお、基本的に原文のまま掲載しているが、回答から個人が特定できないよう一部加工している。

本人

どんな相談でも出来る窓口が欲しい。

整った生活環境で安定した精神で居られる状況（ストレスが少なく生活が安定すれば良い）。

支援者の方と一緒に頑張れる環境。支援者の方と出会い、しっかり私（利用者）が自立するまで、そばで見守り支え続けてくれる。

担当者様からの提案やアドバイスが欲しいです。

支援者の方以外の人と話すのがとても怖くて、全く話すことがないので、支援以外のつながりがあるといいなと思います。

自立したい。働きたい。母から離れて自分の人生を歩みたい。心を許せる人やコミュニティを見つけたい。生きがい、夢中になれることを見つけたい。

週に1回は会える友人が出来ればいいなあとと思っています。後は理解があるパートナーがいれば。

現在、B型作業所を探していますが、情報を自分で調べて比較するだけでも大きな負担を感じています。実際に見学してみると、交通費の有無や昼食、工賃、事務処理能力や運営体制などに大きなばらつきがあり、実際に体験してみないと判断できないと感じました。比較的新しい事業所も多い印象があり、サービスの質に差があります。こうしたポイントを区の方で分かりやすく整理し、簡潔に情報提供してもらえる場があればうれしいです。

家族関係が良くなる。お金を稼いでやりたいことが出来るとか。きっかけが欲しいことなら求人に応募する動機があれば。

障害年金の手続きが怖くてできない。

気軽に相談できる場所があったらいい。ジョブサポートあだちを以前利用して、前向きに少し進めたのは、感謝しています。ジョブサポートをもっと簡単にスピーディに利用できたり、ジョブサポートの内容を、気軽に参加できたりするレクリエーションなどがあれば、とても緊張している人でも参加できたりするのではないかと思います。

家族

通信制高校（ネットコース）に通う子だけの集まりがあればいいと思う。学校の自由参加の行事もあるが、知らない相手といきなり行事参加は困難。ほぼ参加していないため、同世代との交流が自然とできる催しがあればいいと思う。

働けない理由の一つに気象痛があり、その治療に医者にかかって欲しい。

